

鹿嶋市男女共同参画に関する 市民意識調査 実施報告



鹿嶋市男女共同参画に関する市民意識調査 実施報告

I 調査の概要

1 目的

本調査は、鹿嶋市男女共同参画計画（第3次）の計画期間が令和7年度末で終了するため、男女共同参画社会の実現に向けて、次期計画を策定するにあたり、市民の意識、実態等を把握するために実施する。

2 調査期間

令和6年8月7日（水）から令和6年8月31日（土）まで

3 対象者

本市在住の18歳以上の市民（令和6年7月1日現在）とし、住民基本台帳に基づき、年齢構成比を考慮し、層化無作為抽出法により1,500人を抽出する。

男750人 女750人 計1,500人

4 内容

全46問 所要時間15分程度

- ①男女共同参画社会に関する意識
- ②男女の生き方や家庭生活などに関する意識
- ③女性の就業、参画に関する意識
- ④DVやセクハラなどについて
- ⑤男女共同参画社会について

5 調査方法

- （1）郵送調査法（郵送による配布、回収）
- （2）インターネット回答（LoGo フォーム）

6 回答率

- （1）郵送による回答 290
 - （2）インターネット回答 172
- 計461（男性188 女性268 未回答5）
回答率30.7%

Ⅱ 調査結果の概要

1 男女共同参画社会に関する意識について

- ・男女の地位に関する質問では、家庭や職場などをはじめ、全体的に前回調査（令和元年度）に比べて男性優遇の意識は減少している。
- ・慣習・しきたりにおける男女の地位は、71%の方が男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇されていると感じており、前回調査よりも男女共同の意識が後退している。
- ・社会全体での男女の地位は、男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が前回の73%から今回は69%に減少している。一方で女性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が、割合としては少ないながらも前回調査より増加している。
- ・男女での意識の違いとしては、男性の方が「男性の方が優遇されている」との認識が低く、「社会全体で男女は平等になっている」との意識が高い。
- ・若年層に比べ、年齢層が上がるほど社会全体での男女の地位は男性優遇との認識が高い。
- ・男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要なことは、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最多の34%。次いで「女性が働くことや社会参加することを支援する施設やサービスの充実を図ること」が14%と、全体の約半数を占めている。

2 就業について

- ・男性は仕事、女性は家庭という考え方について、そう思わないとの回答が55%と、前回の51%より増加しており、男女共同参画の意識が徐々に浸透してきている。
- ・男性が家事・育児を行うことについて、「男性も家事・育児を行うことは当然である」が63%と、考える方が定着してきている。次いで「子どもにいい影響を与える」が35%と、子どもにも同様の意識を持って育ててほしいとの意向が伺える。
- ・理想とする生活の優先度としては、「家庭生活又は地域・個人の生活を優先しつつ、仕事もしたい」が30%と前回の16%から大きく増加した一方で「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事の優先度は同じにしたい」との回答は13%と前回の33%から大きく減少しており、より家庭や地域・個人の生活を優先したいとの意識の変化が伺える。
- ・年齢層が若いほど、家庭生活又は地域・個人の生活を優先した生活を望む傾向がある。
- ・現状の生活の優先度としては、「仕事を優先している」と「仕事を優先しつつ、家庭生活又は地域・個人の生活もしている」が合わせて39%あり、理想とする生活と現状の生活のギャップが伺える。
- ・50～59歳の年齢層は、他の年齢層に比べ、現状として仕事を優先している傾向が高い。
- ・男女別での意識の差としては、男性は仕事を優先した生活を望み、女性は仕事をしつつも家庭を優先した生活を望むという傾向が伺える。
- ・地域活動に参加している方は22%と前回の30%から減少しており、地域コミュニティの希薄化がさらに進んでいる。
- ・男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは、「夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が56%で最多。次いで「労働時間短縮や休暇制度などの普及により時間に余裕を持てるようにする」が38%であった。

- 女性が職業を持つことについては、「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」と考える方が59%と過半を占めており、働く女性への肯定的な意識は浸透してきている。
- 女性が働きつづけるために必要なこととしては、「子どもを預けられる環境の整備」が最多の54%であった。そのほか、各種行政サービスの充実や、男女共同参画の意識改革、労働環境の改善など、幅広い分野での改善が求められている。
- 女性の活躍推進に関し必要な情報としては、半数以上の方が保育サービスと放課後児童預かりに関する情報を必要としている。また、起業の情報やワーク・ライフ・バランスに関する情報を求める意見が増加するなど、求める情報が多様化してきている。
- 女性リーダーが増えることの影響について「男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる」が58%、次いで「多様な視点が加わることにより、新たなサービスや施策が充実する」が51%であった。

3 ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について

- ドメスティック・バイオレンスの経験については、DVを（自分自身が）受けたことがある方が全体の7.8%あり、前回調査の5.8%よりも増加している。
- 受けたことがあるDVの内容としては、身体的暴力が最多の80%、次いで心理的攻撃が65%であった。
- DVを受けたときの相談先についての質問で、どこ（だれ）にも相談しなかったとの回答が最多の44%あった。相談しなかった理由としては、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が最多の44%、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が38%、「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから」が31%と、課題の多さが浮き彫りとなった。
- セクシュアル・ハラスメントの経験については、自分自身が言葉や身体的接触によるセクハラを受けたことがあると答えた方が全体の15%あった。
- セクハラを受けたときに、どこ（だれ）にも相談しなかった方が32%あり、その理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」が48%、「相談しても無駄だと思ったから」が39%あった。

4 男女共同参画社会について

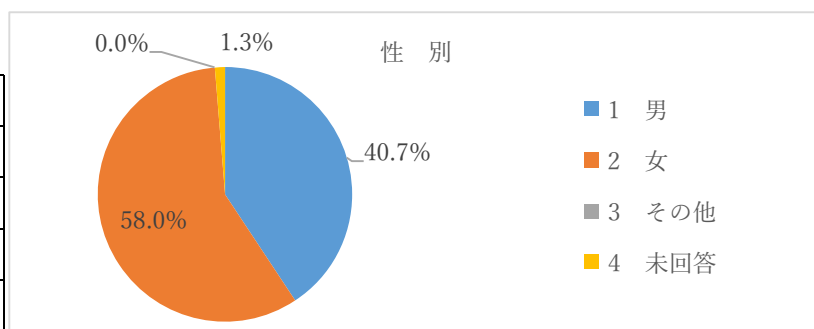
- 男女共同参画に関する用語等の周知度としては、「DV」「マタニティ・ハラスメント」「働き方改革」「LGBTQ」の用語の周知度が高かった。
- 鹿嶋市男女共同参画計画（16%）、及び鹿嶋市男女共同参画情報誌「ウィング」（12%）の周知度は、前回同様周知度が低く、今後の課題である。
- 男女共同参画社会を実現する為に鹿嶋市に望むことは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備に向けた企業や経営者への意識啓発（46%）」「子育てや介護などでいったん仕事をやめた人への再就職の支援（45%）」「各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭生活の両立支援（38%）」が上位を占めた。

Ⅲ 調査結果

回答者の属性

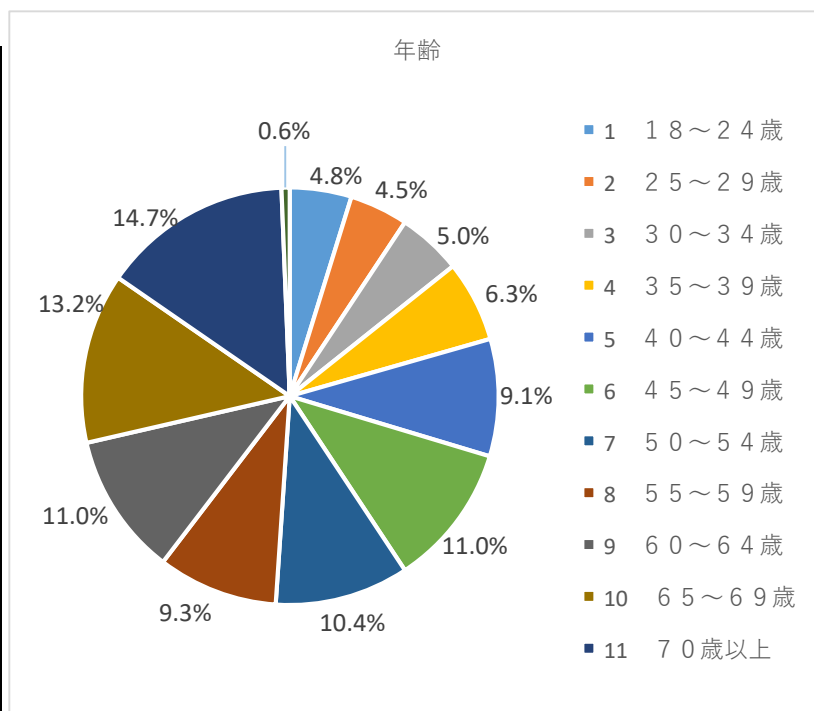
問1 性別

| | |
|-------|-----|
| 1 男 | 188 |
| 2 女 | 268 |
| 3 その他 | 0 |
| 4 未回答 | 5 |
| 合計 | 461 |



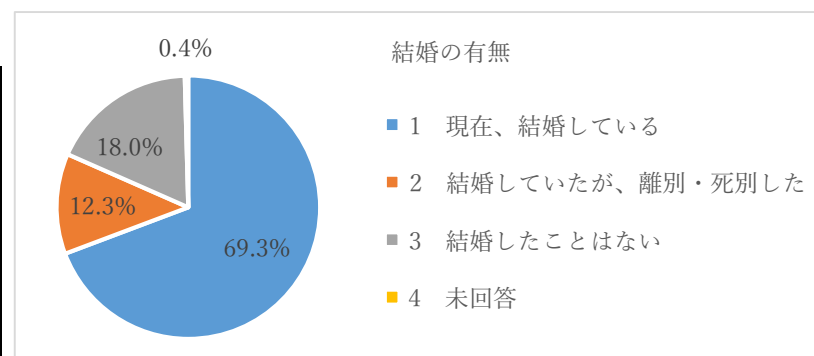
問2 年齢

| | |
|-----------|-----|
| 1 18～24歳 | 22 |
| 2 25～29歳 | 21 |
| 3 30～34歳 | 23 |
| 4 35～39歳 | 29 |
| 5 40～44歳 | 42 |
| 6 45～49歳 | 51 |
| 7 50～54歳 | 48 |
| 8 55～59歳 | 43 |
| 9 60～64歳 | 51 |
| 10 65～69歳 | 61 |
| 11 70歳以上 | 68 |
| 12 未回答 | 2 |
| 合計 | 461 |



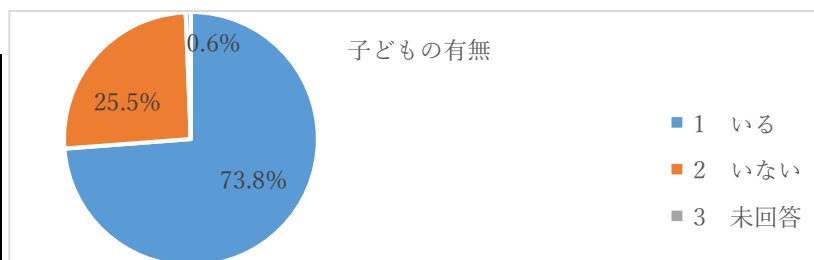
問3 結婚の有無

| | |
|-------------------|-----|
| 1 現在、結婚している | 320 |
| 2 結婚していたが、離別・死別した | 57 |
| 3 結婚したことはない | 83 |
| 4 未回答 | 1 |
| 合計 | 461 |



問4 子どもの有無

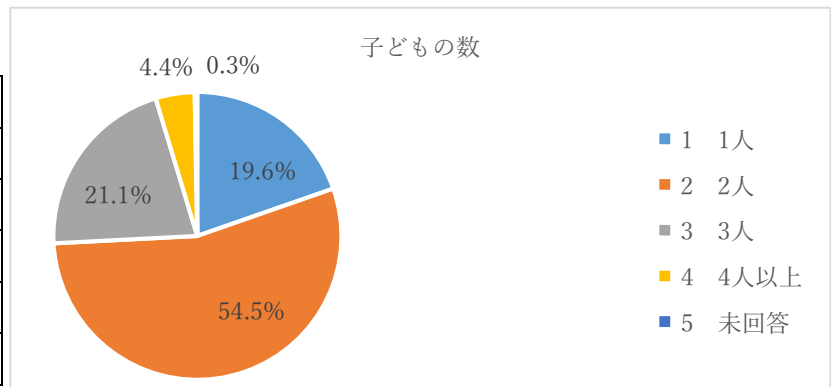
| | |
|-------|-----|
| 1 いる | 341 |
| 2 いない | 118 |
| 3 未回答 | 2 |
| 合計 | 461 |



問5 子どもの数

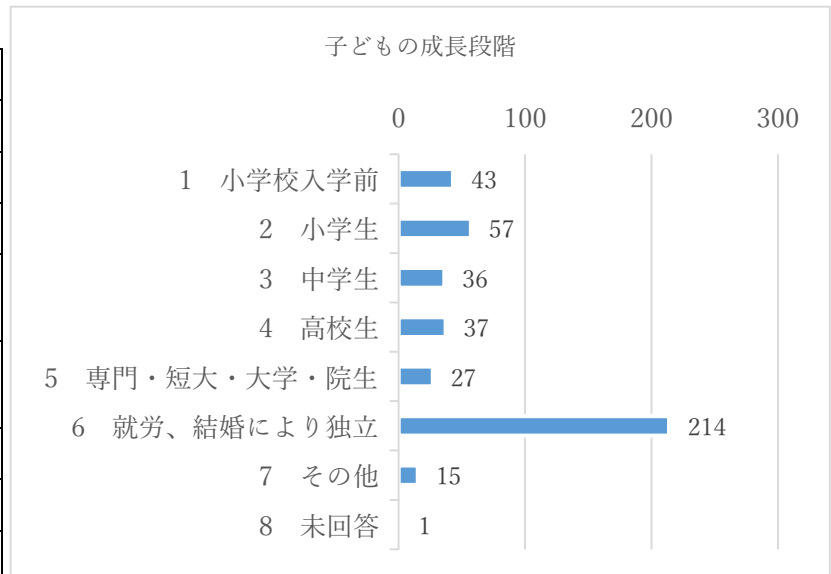
(いると答えた方)

| | | |
|----|------|-----|
| 1 | 1人 | 67 |
| 2 | 2人 | 186 |
| 3 | 3人 | 72 |
| 4 | 4人以上 | 15 |
| 5 | 未回答 | 1 |
| 合計 | | 341 |



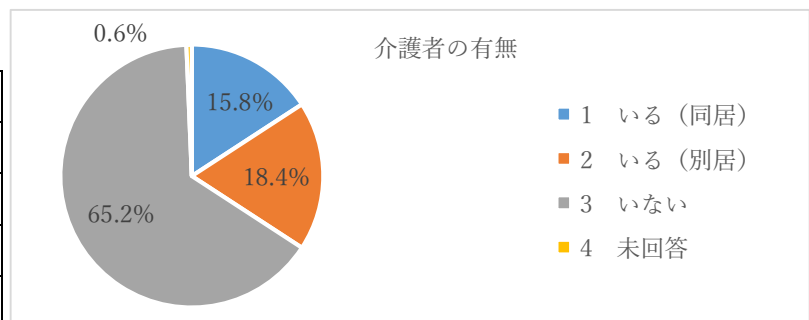
問6 子どもの成長段階

| | | |
|----|-------------|-----|
| 1 | 小学校入学前 | 43 |
| 2 | 小学生 | 57 |
| 3 | 中学生 | 36 |
| 4 | 高校生 | 37 |
| 5 | 専門・短大・大学・院生 | 27 |
| 6 | 就労、結婚により独立 | 214 |
| 7 | その他 | 15 |
| 8 | 未回答 | 1 |
| 合計 | | 430 |



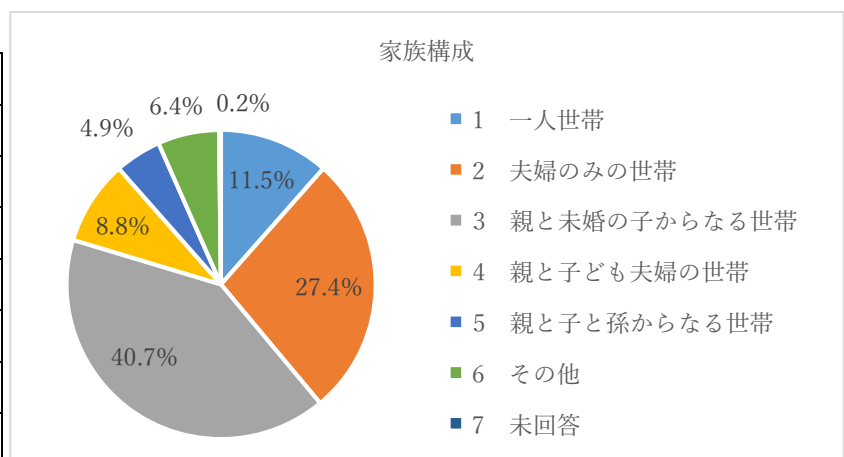
問7 介護者の有無

| | | |
|----|--------|-----|
| 1 | いる（同居） | 73 |
| 2 | いる（別居） | 85 |
| 3 | いない | 301 |
| 4 | 未回答 | 2 |
| 合計 | | 461 |



問8 家族構成

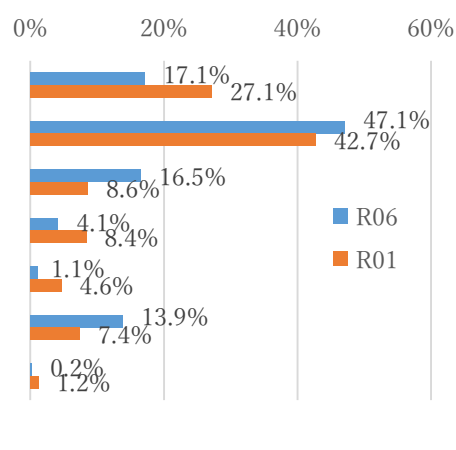
| | | |
|----|---------|-----|
| 1 | 一人世帯 | 52 |
| 2 | 夫婦のみ | 124 |
| 3 | 親と未婚の子 | 184 |
| 4 | 親と子ども夫婦 | 40 |
| 5 | 親と子と孫 | 22 |
| 6 | その他 | 29 |
| 7 | 未回答 | 1 |
| 合計 | | 452 |



1 男女共同参画社会に関する意識について

問9 家庭生活（家事、育児、介護など）での男女の地位

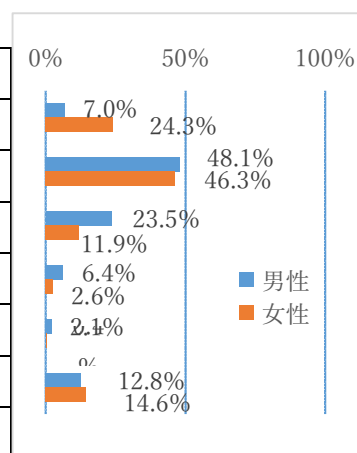
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 79 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 217 |
| 3 平等になっている | 76 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 19 |
| 5 女性の方が優遇されている | 5 |
| 6 わからない | 64 |
| 7 未回答 | 1 |
| 合計 | 461 |



- ・家庭生活での男女の地位は、男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が前回調査 69.8%から今回調査では 64.22%に減少。平等になっているとの回答は前回調査の 8.6%から今回調査では 16.5%と倍増し、家庭生活での男女共同の意識の変化が進んでいる。

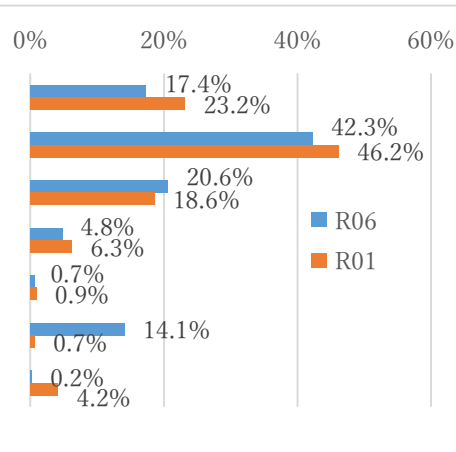
（男女別）

| | 男性 | 女性 |
|------------------------|-----|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 13 | 65 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 90 | 124 |
| 3 平等になっている | 44 | 32 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 12 | 7 |
| 5 女性の方が優遇されている | 4 | 1 |
| 6 わからない | 24 | 39 |
| 合計 | 187 | 268 |



問10 職場での男女の地位

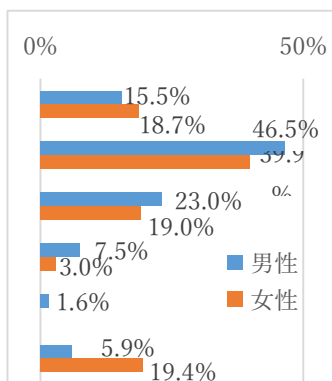
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 80 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 195 |
| 3 平等になっている | 95 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 22 |
| 5 女性の方が優遇されている | 3 |
| 6 わからない | 65 |
| 7 未回答 | 1 |
| 合計 | 461 |



- ・職場での男女の地位は、男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が前回の 69.4%から今回は 59.7%に減少。平等になっているとの回答は前回の 18.6%から今回は 20.6%と増加し、職場での男女共同の意識の変化が徐々に進んでいる

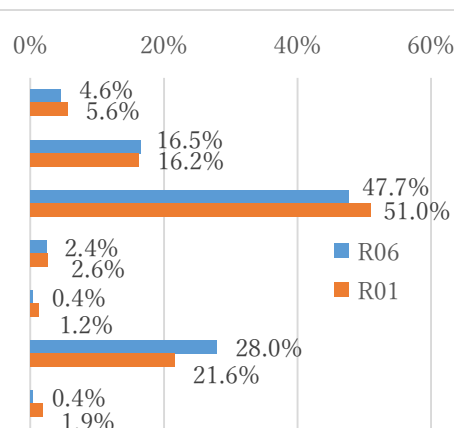
(男女別)

| | 男性 | 女性 |
|------------------------|-----|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 29 | 50 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 87 | 107 |
| 3 平等になっている | 43 | 51 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 14 | 8 |
| 5 女性の方が優遇されている | 3 | 0 |
| 6 わからない | 11 | 52 |
| 合計 | 187 | 268 |



問 1 1 学校教育の場での男女の地位

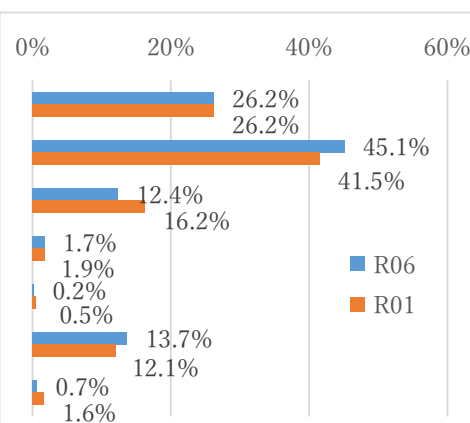
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 21 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 76 |
| 3 平等になっている | 220 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 11 |
| 5 女性の方が優遇されている | 2 |
| 6 わからない | 129 |
| 7 未回答 | 2 |
| 合計 | 461 |



・学校教育の場での男女の地位は、平等になっているとの回答は 47.7%と約半数を占め、家庭や職場での評価よりも男女共同の意識が高いが、前回の 51.0%からは若干減少した。

問 1 2 慣習・しきたりでの男女の地位

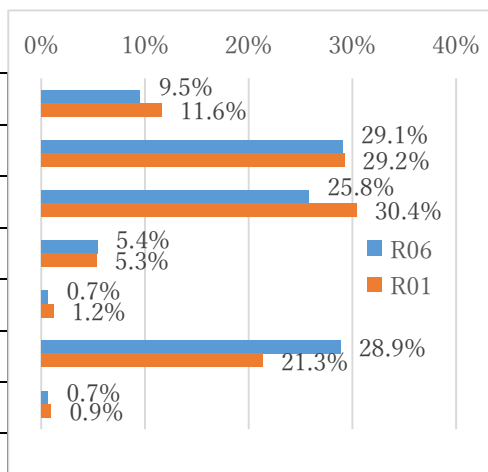
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 121 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 208 |
| 3 平等になっている | 57 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 8 |
| 5 女性の方が優遇されている | 1 |
| 6 わからない | 63 |
| 7 未回答 | 3 |
| 合計 | 461 |



・慣習・しきたりでの男女の地位は、71.3%の方が男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇されていると感じており、前回調査よりも男女共同の意識が後退している。

問１３ 地域活動の場での男女の地位

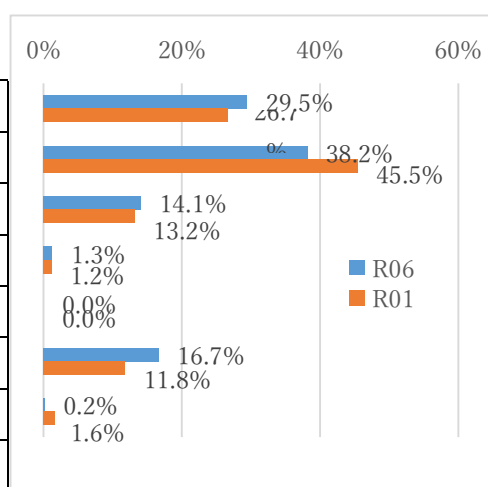
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 44 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 134 |
| 3 平等になっている | 119 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 25 |
| 5 女性の方が優遇されている | 3 |
| 6 わからない | 133 |
| 7 未回答 | 3 |
| 合計 | 461 |



- ・地域活動の場での男女の地位は、平等になっているとの回答が前回の 30.4%から今回は 25.8%と減少した。一方で分からないとの回答が 7.6 ポイント増加した。

問１４ 政治・行政の場での男女の地位

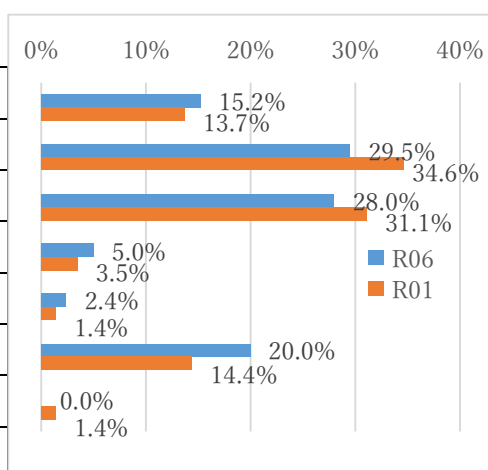
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 136 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 176 |
| 3 平等になっている | 65 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 6 |
| 5 女性の方が優遇されている | 0 |
| 6 わからない | 77 |
| 7 未回答 | 1 |
| 合計 | 461 |



- ・政治・行政の場での男女の地位は、男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が前回の 72.2%から今回は 67.7%に減少。平等になっているとの回答も 0.9%増加するなど、政治・行政の場での男女共同の意識の変化が徐々に進んでいる。

問１５ 法律や制度での男女の地位

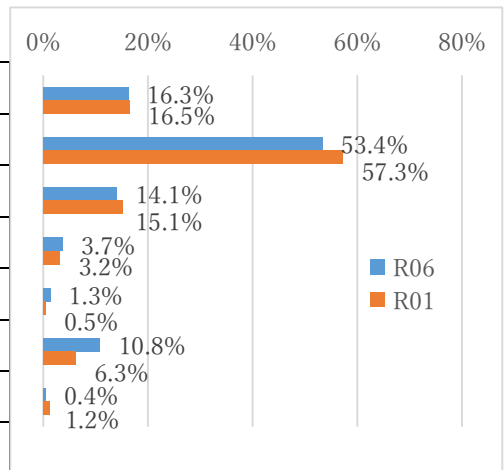
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 70 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 136 |
| 3 平等になっている | 129 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 23 |
| 5 女性の方が優遇されている | 11 |
| 6 わからない | 92 |
| 7 未回答 | 0 |
| 合計 | 461 |



- ・法律や制度での男女の地位は、女性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が、割合としては少ないながらも前回調査より増加している。

問16 社会全体での男女の地位

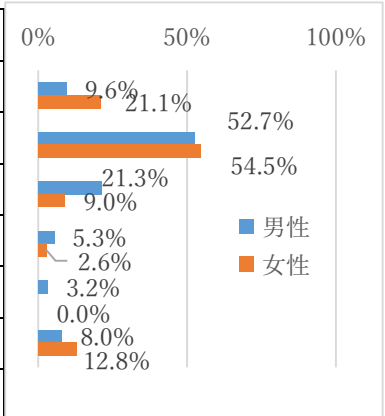
| | |
|------------------------|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 75 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 246 |
| 3 平等になっている | 65 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 17 |
| 5 女性の方が優遇されている | 6 |
| 6 わからない | 50 |
| 7 未回答 | 2 |
| 合計 | 461 |



- 社会全体での男女の地位は、男性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が前回の73.8%から今回は69.7%に減少している。一方で女性の方が優遇又はどちらかといえば優遇との回答が、割合としては少ないながらも前回調査より増加している。

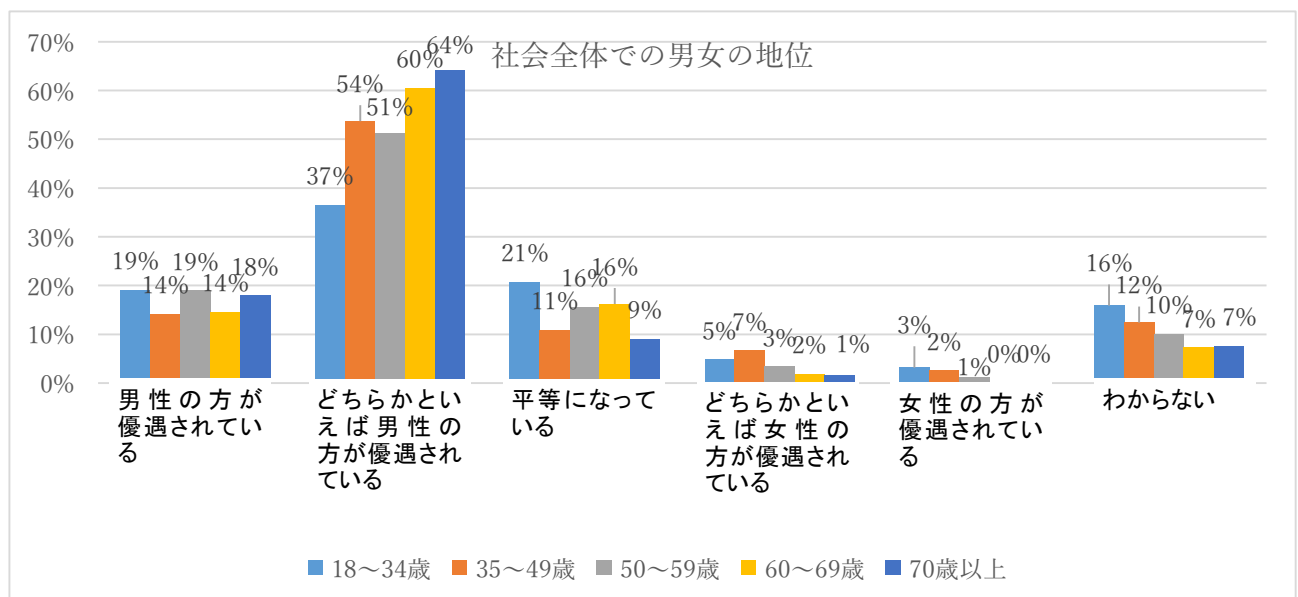
(男女別)

| | 男性 | 女性 |
|------------------------|-----|-----|
| 1 男性の方が優遇されている | 18 | 56 |
| 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている | 99 | 145 |
| 3 平等になっている | 40 | 24 |
| 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている | 10 | 7 |
| 5 女性の方が優遇されている | 6 | 0 |
| 6 わからない | 15 | 34 |
| 合計 | 188 | 266 |



- 男性の方が「社会全体で男女は平等になっている」との意識が高い。

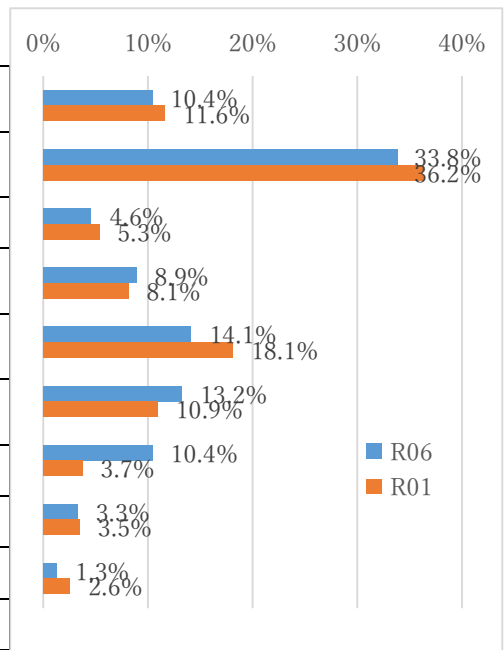
(年代別の構成比)



- 若年層に比べ、年齢層が上がるほど社会全体での男女の地位は男性優遇であるとの認識が高い。

問１７ 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために
最も重要なこと

| | |
|--|-----|
| １ 法律や制度を見直し、女性差別につながるものを改めること | 48 |
| ２ 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること | 156 |
| ３ 女性自身が、経済力をつけること | 21 |
| ４ 女性自身が、知識や技術を習得し、能力の向上を図ること | 41 |
| ５ 女性が働くことや社会参加することを支援する施設やサービスの充実を図ること | 65 |
| ６ 国や地方公共団体、企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する | 61 |
| ７ わからない | 48 |
| ８ その他 | 15 |
| ９ 未回答 | 6 |
| 合計 | 461 |

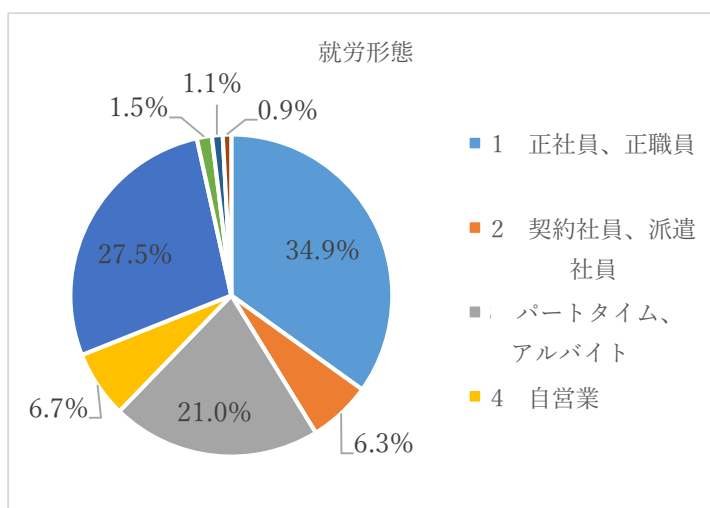


- 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要なことは、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最多の33.8%。次いで「女性が働くことや社会参加することを支援する施設やサービスの充実を図ること」が14.1%と、全体の約半数を占めている。

2 就業について

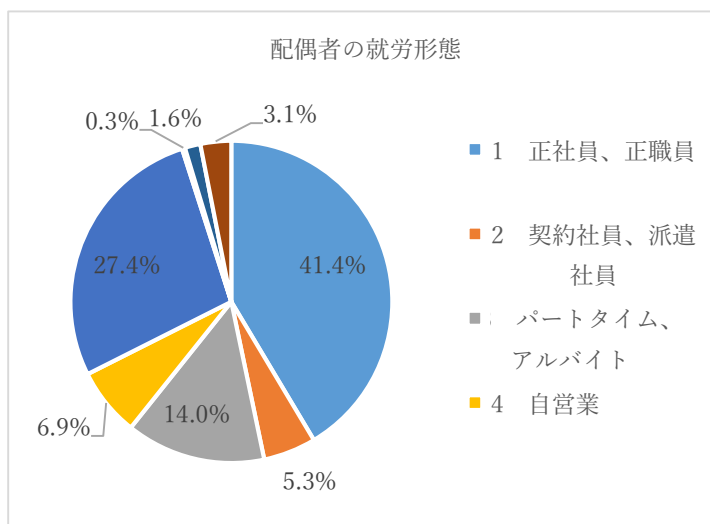
問18 現在の就労形態

| | |
|----------------|-----|
| 1 正社員、正職員 | 161 |
| 2 契約社員、派遣社員 | 29 |
| 3 パートタイム、アルバイト | 97 |
| 4 自営業 | 31 |
| 5 家事専業・無職 | 127 |
| 6 学生 | 7 |
| 7 その他 | 5 |
| 8 未回答 | 4 |
| 合計 | 461 |



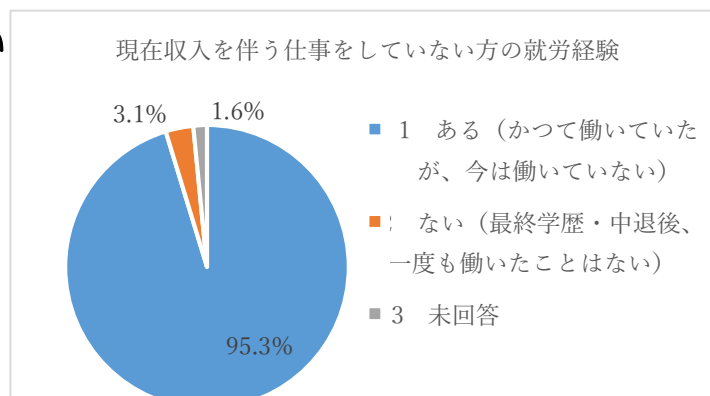
問19 配偶者の現在の就労形態

| | |
|----------------|-----|
| 1 正社員、正職員 | 133 |
| 2 契約社員、派遣社員 | 17 |
| 3 パートタイム、アルバイト | 45 |
| 4 自営業 | 22 |
| 5 家事専業・無職 | 88 |
| 6 学生 | 1 |
| 7 その他 | 5 |
| 8 未回答 | 10 |
| 合計 | 321 |



問20 現在収入を伴う仕事をしていない方の就労経験

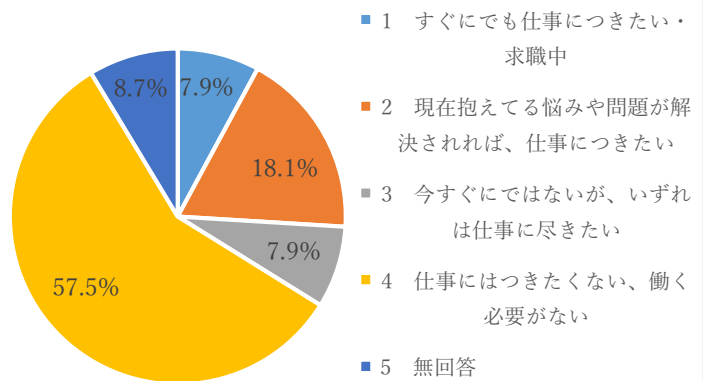
| | |
|----------------------------|-----|
| 1 ある（かつて働いていたが、今は働いていない） | 121 |
| 2 ない（最終学歴・中退後、一度も働いたことはない） | 4 |
| 3 未回答 | 2 |
| 合計 | 127 |



問21 現在収入を伴う仕事をしていない方の今後の就労希望

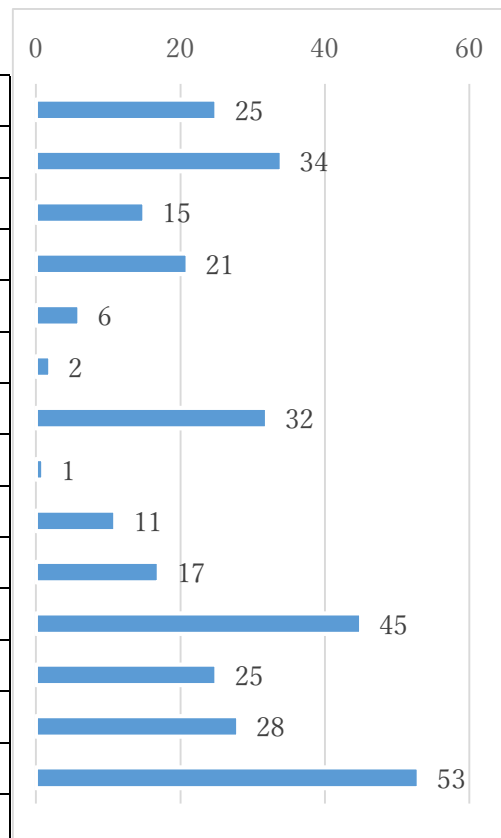
| | |
|-----------------------------|-----|
| 1 すぐにでも仕事につきたい・求職中 | 10 |
| 2 現在抱える悩みや問題が解決されれば、仕事につきたい | 23 |
| 3 今すぐにはではないが、いずれは仕事に尽きたい | 10 |
| 4 仕事にはつきたくない、働く必要がない | 73 |
| 5 無回答 | 11 |
| 合計 | 127 |

現在収入を伴う仕事をしていない方の今後の就労希望



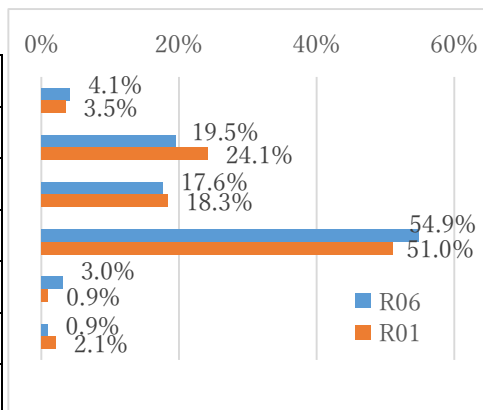
問22 現在、契約社員、派遣社員、パートタイム・アルバイト、家事専業・無職であることの理由

| | |
|----------------------|-----|
| 1 健康上の理由のため | 25 |
| 2 家事や子育てに専念するため | 34 |
| 3 介護や看護に専念するため | 15 |
| 4 家事・子育てとの両立に自信がないため | 21 |
| 5 介護や看護との両立に自信がない | 6 |
| 6 家族の反対や理解が得られないため | 2 |
| 7 希望する条件の仕事がみつからないため | 32 |
| 8 資格取得などの準備中のため | 1 |
| 9 仕事につくのが不安なため | 11 |
| 10 経済的に働く必要がないため | 17 |
| 11 定年退職したため | 45 |
| 12 特に理由はない | 25 |
| 14 その他 | 28 |
| 13 未回答 | 53 |
| 合計 | 315 |



問23 男性は仕事、女性は家庭という考え方について

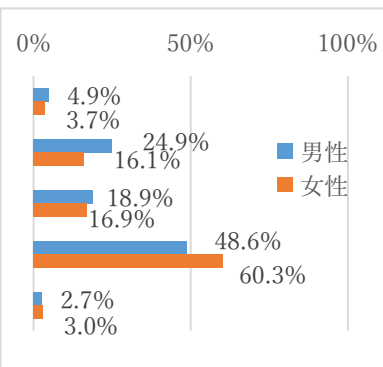
| | |
|------------------|-----|
| 1 そう思う | 19 |
| 2 どちらかといえばそう思う | 90 |
| 3 どちらかといえばそう思わない | 81 |
| 4 そう思わない | 253 |
| 5 わからない | 14 |
| 6 未回答 | 4 |
| 合計 | 461 |



・男性は仕事、女性は家庭という考え方について、そう思わないとの回答が54.9%と、前回の51.0%より増加しており、男女共同参画の意識が徐々に浸透してきている。

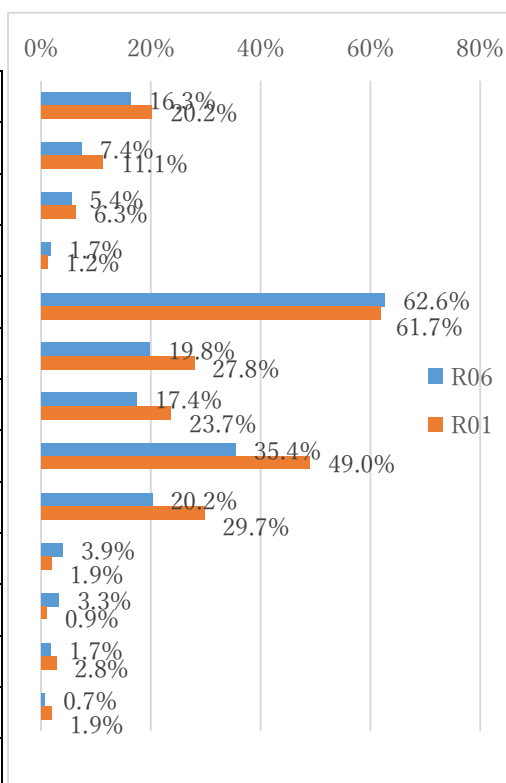
(男女別)

| | 男性 | 女性 |
|------------------|-----|-----|
| 1 そう思う | 9 | 10 |
| 2 どちらかといえばそう思う | 46 | 43 |
| 3 どちらかといえばそう思わない | 35 | 45 |
| 4 そう思わない | 90 | 161 |
| 5 わからない | 5 | 8 |
| 合計 | 185 | 267 |



問24 男性が家事・育児を行うことについて

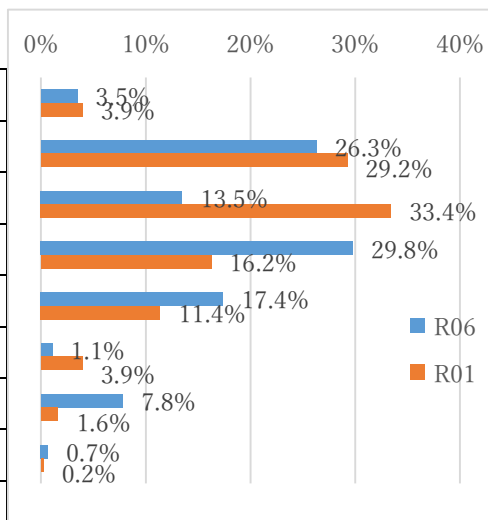
| | |
|----------------------------------|-----|
| 1 家事・育児は女性の方が向いている | 75 |
| 2 妻が家事・育児をしていないと誤解される | 34 |
| 3 周囲から冷たい目で見られる | 25 |
| 4 男性は、家事・育児を行うべきではない | 8 |
| 5 男性も家事・育児を行うことは当然である | 288 |
| 6 家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる | 91 |
| 7 男性自身も充実感が得られる | 80 |
| 8 子どもにいい影響を与える | 163 |
| 9 仕事と両立させることは、現実として難しい | 93 |
| 10 特にない | 18 |
| 11 わからない | 15 |
| 12 その他 | 8 |
| 13 未回答 | 3 |
| ケース数 (n) | 460 |



・男性が家事・育児を行うことについて、「男性も家事・育児を行うことは当然である」と考える方が62.6%と最多であった。次いで「子どもにいい影響を与える」が35.4%と、子どもにも同様の意識を持って育ててほしいとの意向が伺える。

問25 理想とする生活の優先度

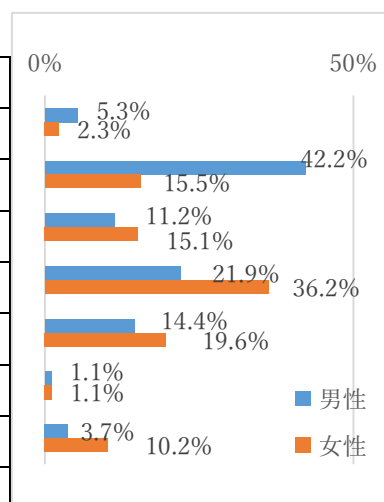
| | |
|--------------------------------|-----|
| 1 仕事を優先したい | 16 |
| 2 仕事を優先しつつ、家庭生活又は地域・個人の生活もしたい | 121 |
| 3 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事の優先度は同じにしたい | 62 |
| 4 家庭生活又は地域・個人の生活を優先しつつ、仕事もしたい | 137 |
| 5 家庭生活又は地域・個人の生活を優先したい | 80 |
| 6 学生のため学業を優先したい | 5 |
| 7 わからない | 36 |
| 8 未回答 | 3 |
| 合計 | 460 |



- ・理想とする生活の優先度としては、「家庭生活又は地域・個人の生活を優先しつつ、仕事もしたい」が29.8%と前回の16.2%から大きく増加した一方で「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事の優先度は同じにしたい」との回答は13.5%と前回の33.4%から大きく減少しており、より家庭や地域・個人の生活を優先したいとの意識の変化が伺える。

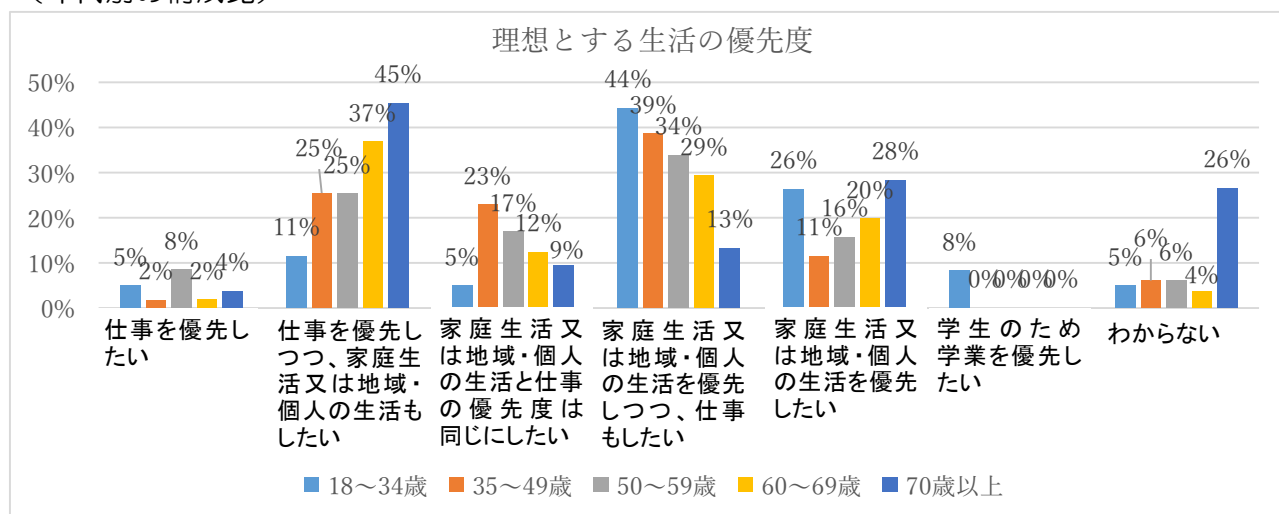
(男女別)

| | 男性 | 女性 |
|--------------------------------|-----|-----|
| 1 仕事を優先したい | 10 | 6 |
| 2 仕事を優先しつつ、家庭生活又は地域・個人の生活もしたい | 79 | 41 |
| 3 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事の優先度は同じにしたい | 21 | 40 |
| 4 家庭生活又は地域・個人の生活を優先しつつ、仕事もしたい | 41 | 96 |
| 5 家庭生活又は地域・個人の生活を優先したい | 27 | 52 |
| 6 学生のため学業を優先したい | 2 | 3 |
| 7 わからない | 7 | 27 |
| 合計 | 187 | 265 |



- ・男性は仕事を優先、女性は家庭を優先したい意識が強い傾向がある。

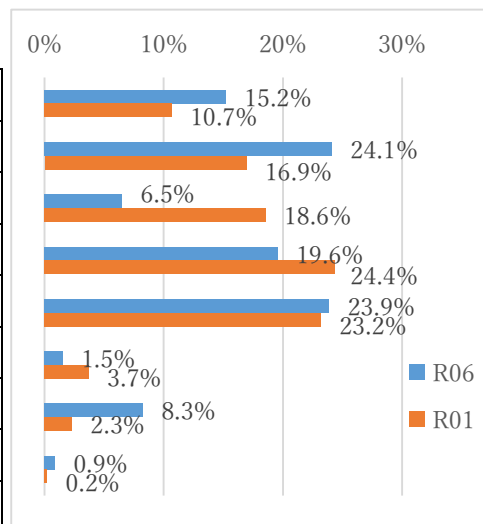
(年代別の構成比)



- ・年齢層が若いほど、家庭生活又は地域・個人の生活を優先した生活を望む傾向がある。

問26 現状の生活の優先度

| | |
|--------------------------------|-----|
| 1 仕事を優先している | 70 |
| 2 仕事を優先しつつ、家庭生活又は地域・個人の生活もしている | 111 |
| 3 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事の優先度は同じである | 30 |
| 4 家庭生活又は地域・個人の生活を優先しつつ、仕事もしている | 90 |
| 5 家庭生活又は地域・個人の生活を優先している | 110 |
| 6 学生のため学業を優先している | 7 |
| 7 わからない | 38 |
| 8 未回答 | 4 |
| 合計 | 460 |

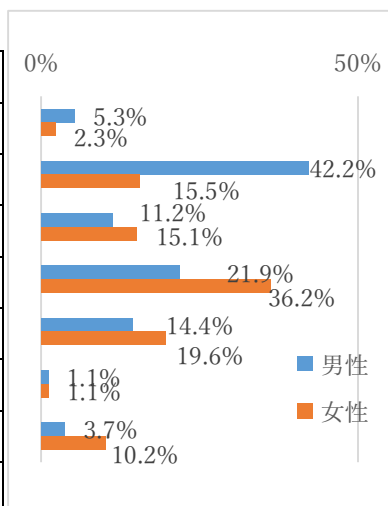


・現状の生活の優先度としては、「仕事を優先している」と「仕事を優先しつつ、家庭生活又は地域・個人の生活もしている」が合わせて39.3%あり、理想とする生活と現状の生活のギャップが伺える。

・「家庭生活又は地域・個人の生活を優先している」との回答が23.9%あるが、60歳以上の回答者が28.9%いることによる影響も考えられる。

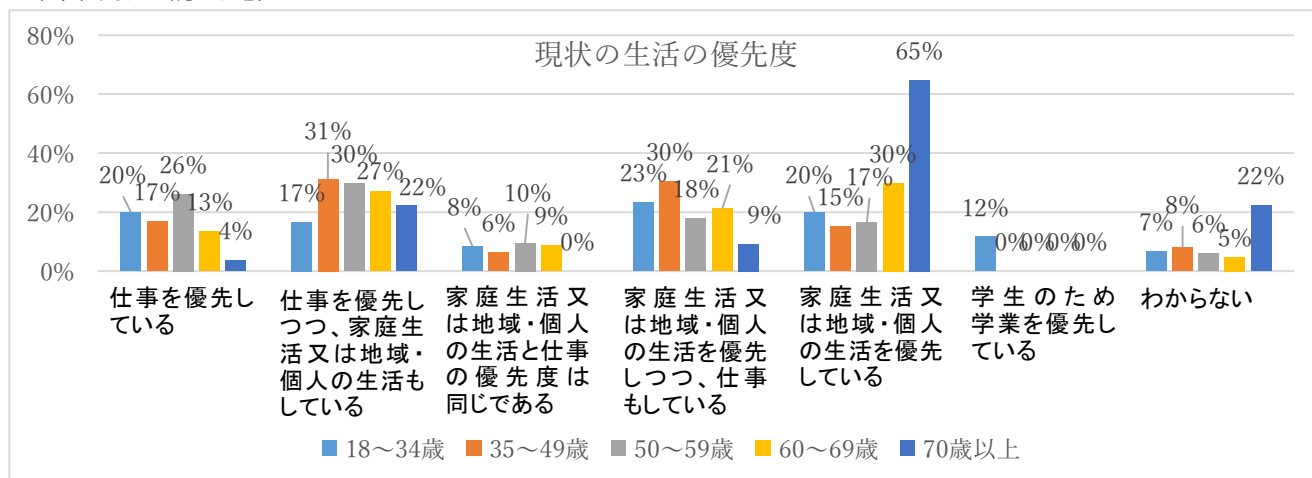
(男女別)

| | 男性 | 女性 |
|--------------------------------|-----|-----|
| 1 仕事を優先している | 43 | 26 |
| 2 仕事を優先しつつ、家庭生活又は地域・個人の生活もしている | 61 | 49 |
| 3 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事の優先度は同じである | 12 | 17 |
| 4 家庭生活又は地域・個人の生活を優先しつつ、仕事もしている | 22 | 68 |
| 5 家庭生活又は地域・個人の生活を優先している | 38 | 72 |
| 6 学生のため学業を優先している | 2 | 5 |
| 7 わからない | 9 | 27 |
| 合計 | 187 | 264 |



・現状の生活では、男性は仕事を優先、女性は家庭を優先した生活をしている方が多い傾向にある。

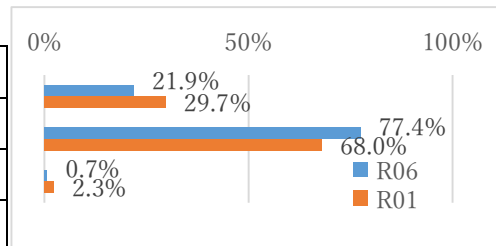
(年代別の構成比)



・50~59歳の年齢層は、現状として仕事を優先している傾向が高い。

問27 地域活動の参加状況

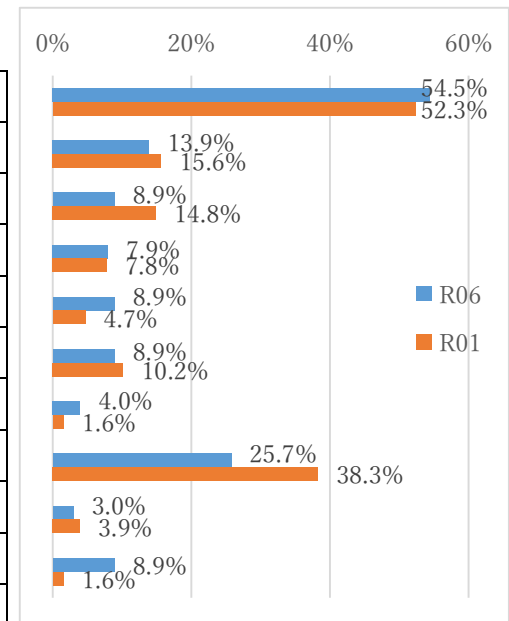
| | |
|---------|-----|
| 1 している | 101 |
| 2 していない | 357 |
| 3 未回答 | 3 |
| 合計 | 461 |



・地域活動に参加している方は21.9%と前回の29.7%から減少しており、地域コミュニティの希薄化がさらに進んでいる。

問28 参加している地域活動の内容

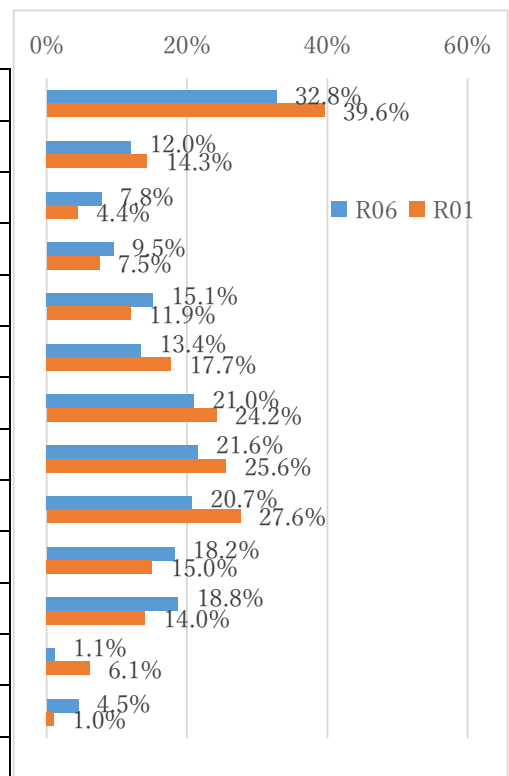
| | |
|------------------------|-----|
| 1 町内会や自治会の活動 | 55 |
| 2 まちづくり委員会や公民館活動など | 14 |
| 3 学校などのPTA活動や子ども会活動 | 9 |
| 4 スポーツ少年団や子育てサークルなどの活動 | 8 |
| 5 福祉関係の活動 | 9 |
| 6 防災・防犯に関する活動 | 9 |
| 7 自然環境保護に関する活動 | 4 |
| 8 趣味やスポーツ、文化活動 | 26 |
| 9 国際交流に関する活動 | 3 |
| 10 その他 | 9 |
| ケース数 (n) | 101 |



・参加している地域活動の内容は、自治会活動は最多の54.5%、次いで趣味やスポーツ、文化活動が25.7%を占めている。PTA活動や子ども会活動は8.9%と前回より減少している。

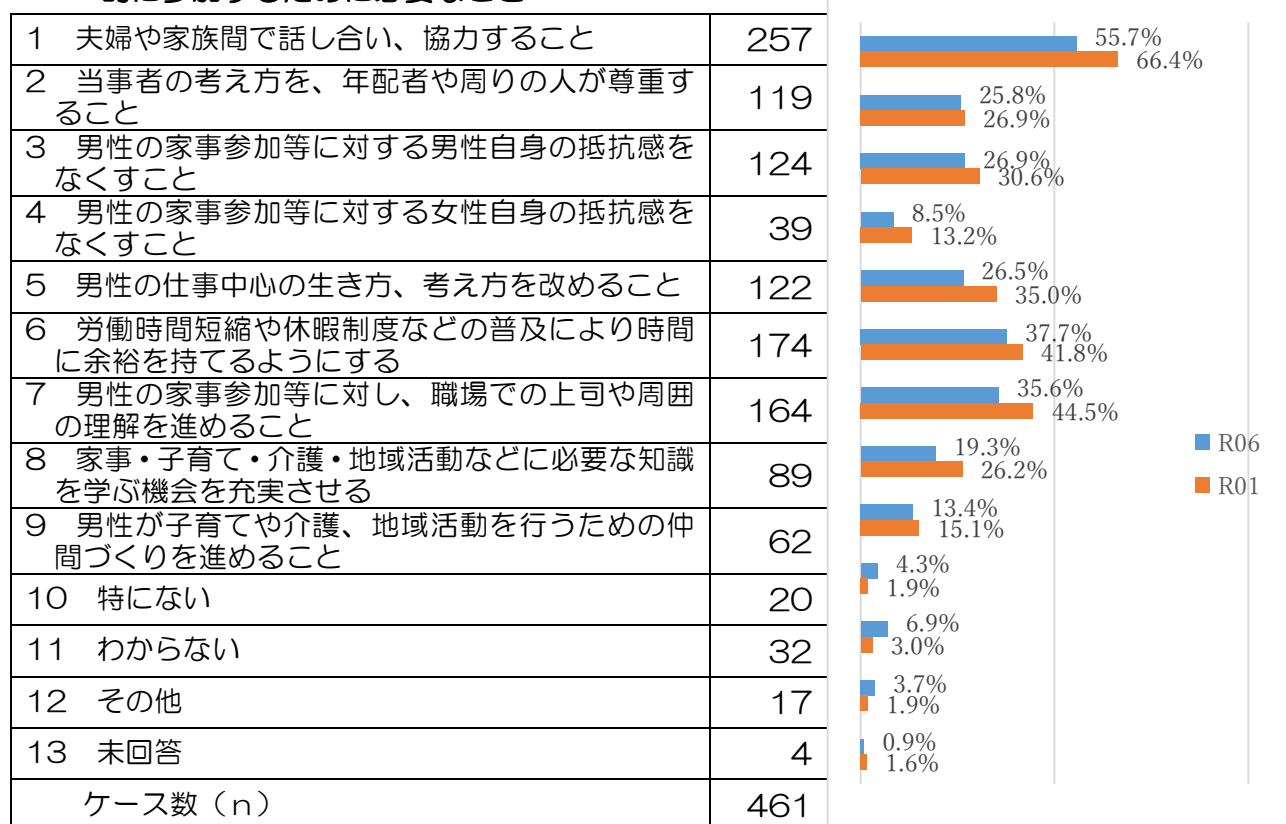
問29 地域活動に参加していない理由

| | |
|------------------|-----|
| 1 仕事が忙しく時間がない | 117 |
| 2 育児のために時間がない | 43 |
| 3 介護や看護のために時間がない | 28 |
| 4 経済的な負担がある | 34 |
| 5 健康に自信がない | 54 |
| 6 対人関係に自信がない | 48 |
| 7 情報がなくわからない | 75 |
| 8 役員などにされると困る | 77 |
| 9 きっかけがない | 74 |
| 10 参加したくない | 65 |
| 11 特に理由はない | 67 |
| 12 未回答 | 4 |
| 13 その他 | 16 |
| ケース数 (n) | 357 |



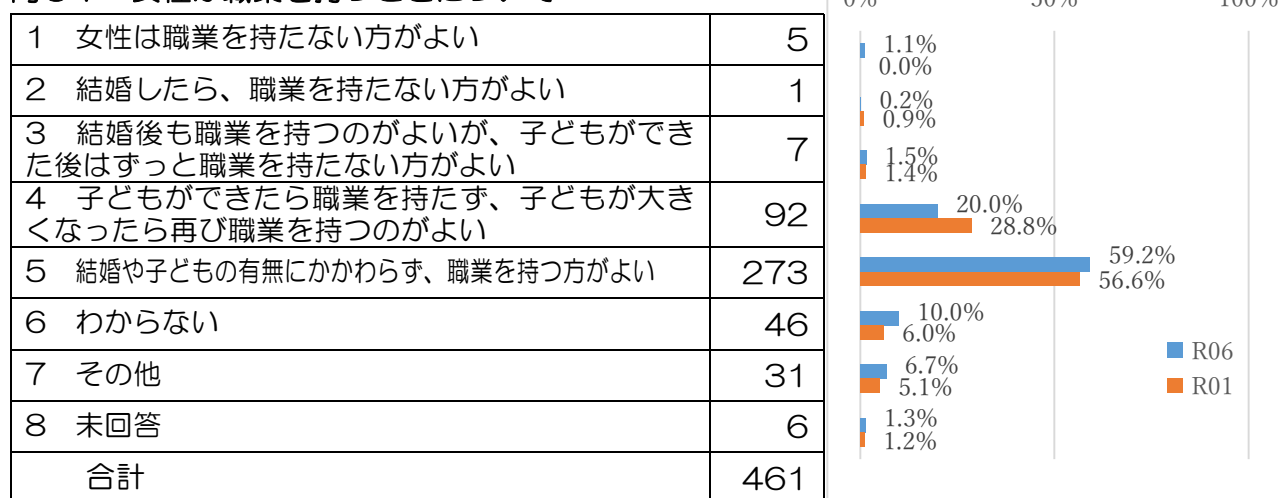
- ・地域活動に参加していない理由は、「仕事が忙しく時間がない」が32.8%で最多。次いで「役員などにされると困る」21.6%であった。

問30 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと



- ・男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは、「夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が55.7%で最多。次いで「労働時間短縮や休暇制度などの普及により時間に余裕を持てるようにする」が37.7%であった。

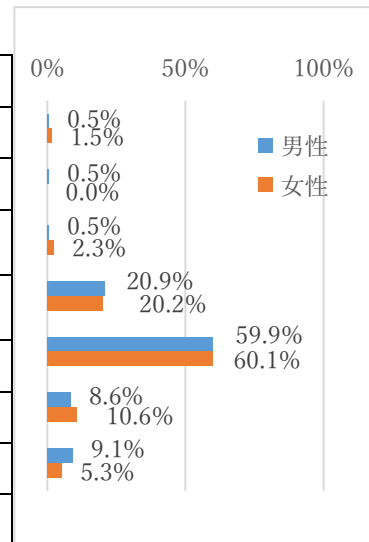
問31 女性が職業を持つことについて



- ・女性が職業を持つことについては、「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」と考える方が59.2%と過半を占めており、働く女性への肯定的な意識は浸透している。

(男女別)

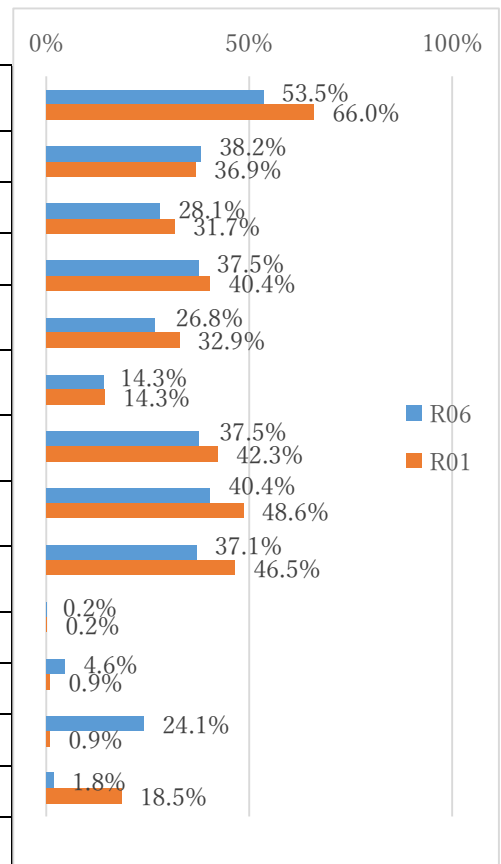
| | 男性 | 女性 |
|--|-----|-----|
| 1 女性は職業を持たない方がよい | 1 | 4 |
| 2 結婚したら、職業を持たない方がよい | 1 | 0 |
| 3 結婚後も職業を持つのがよいが、子どもができた後はずっと職業を持たない方がよい | 1 | 6 |
| 4 子どもができれば職業を持たず、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい | 39 | 53 |
| 5 結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい | 112 | 158 |
| 6 わからない | 16 | 28 |
| 7 その他 | 17 | 14 |
| 合計 | 187 | 263 |



・女性が職業を持つことに対して、男女の意識の差はほぼない。

問32 女性が働きつづけるために必要なこと

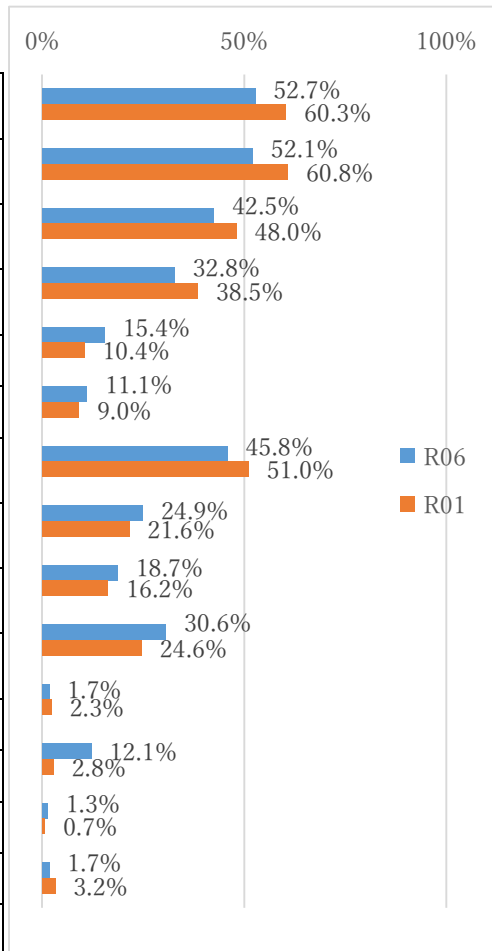
| | |
|---------------------------------|-----|
| 1 保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 | 244 |
| 2 家事・育児支援サービスの充実 | 174 |
| 3 介護支援サービスの充実 | 128 |
| 4 男性の家事参加への理解・意識改革 | 171 |
| 5 (女性が働き続けることへの) 周囲の理解・意識改革 | 122 |
| 6 (女性が働き続けることへの) 女性自身の意識改革 | 65 |
| 7 男女双方の長時間労働の改善など、労働環境の改善 | 171 |
| 8 職場における育児・介護・看護のための休暇制度の充実 | 184 |
| 9 出産・介護などで離職した人に対する再雇用制度の充実 | 169 |
| 10 特になし | 1 |
| 11 わからない | 21 |
| 12 未回答 | 110 |
| 13 その他 | 8 |
| ケース数 (n) | 456 |



・女性が働きつづけるために必要なこととしては、「子どもを預けられる環境の整備」が最多の53.5%であった。そのほか、各種行政サービスの充実や、男女共同参画の意識改革、労働環境の改善など、幅広い分野での改善が求められている。

問33 女性の活躍推進に関する情報のうち、特に必要になること

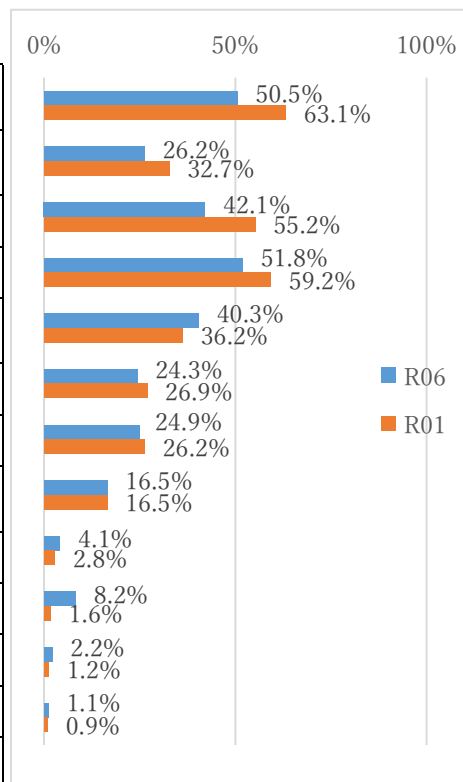
| | |
|---|-----|
| 1 保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など） | 243 |
| 2 放課後児童クラブなど放課後の児童預かりに関する情報（場所、利用料など） | 240 |
| 3 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など） | 196 |
| 4 就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など） | 151 |
| 5 起業のための情報（支援内容・相談先など） | 71 |
| 6 NPO 活動のための情報（支援内容・相談先など） | 51 |
| 7 仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など） | 211 |
| 8 出産・育児などを経験しながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報 | 115 |
| 9 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報 | 86 |
| 10 ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方の見直しの実践例に関する情報 | 141 |
| 11 特にない | 8 |
| 12 わからない | 56 |
| 13 その他 | 6 |
| 14 未回答 | 8 |
| ケース数（n） | 461 |



- ・女性の活躍推進に関し必要な情報としては、半数以上の方が保育サービスと放課後児童預かりに関する情報が必要としている。また、起業のための情報やワークライフバランスに関する情報を求める意見が増加するなど、求める情報が多様化してきている。

問34 女性リーダーが増えることの影響

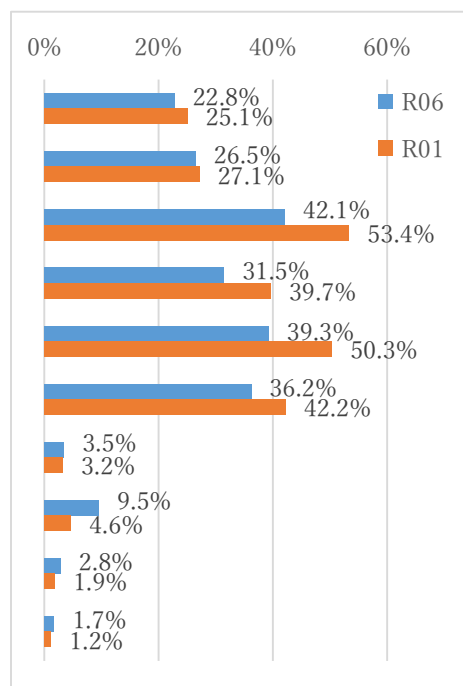
| | |
|--|-----|
| 1 多様な視点が加わるにより、新たなサービスや施策が充実する | 233 |
| 2 人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する | 121 |
| 3 女性の声が反映されやすくなる | 194 |
| 4 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる | 239 |
| 5 男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる | 186 |
| 6 労働時間の短縮など、働き方の見直しが進む | 112 |
| 7 男性の家事・育児などへの参加が増える | 115 |
| 8 保育や介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増える | 76 |
| 9 特にない | 19 |
| 10 わからない | 38 |
| 11 その他 | 10 |
| 12 未回答 | 5 |
| ケース数（n） | 461 |



・女性リーダーが増えることの影響について「男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる」が51.8%，次いで「多様な視点が加わるにより、新たなサービスや施策が充実する」が50.5%であった。

問35 女性リーダーを増やすときに障害となるもの

| | |
|------------------------------------|-----|
| 1 必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと | 105 |
| 2 リーダーになることに対する女性自身の抵抗感 | 122 |
| 3 男性がリーダーとなるのが社会通念、慣行となっていること | 194 |
| 4 長時間労働の改善など、労働環境が十分ではないこと | 145 |
| 5 保育・介護・家事などにおける夫や家族などの支援が十分ではないこと | 181 |
| 6 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと | 167 |
| 7 特にない | 16 |
| 8 わからない | 44 |
| 9 その他 | 13 |
| 10 未回答 | 8 |
| ケース数（n） | 461 |

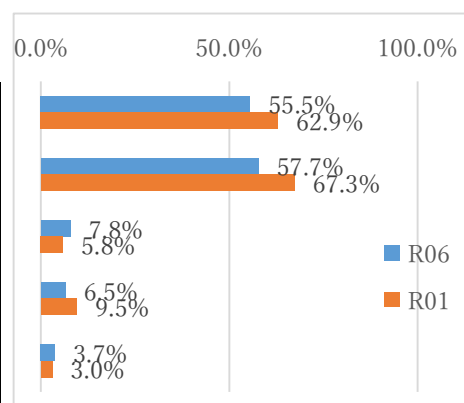


・女性リーダーを増やすときに障害となるものについては「男性がリーダーとなるのが社会通念、慣行となっていること」が最多の42.1%，次いで「保育・介護・家事などにおける夫や家族などの支援が十分ではないこと」が39.3%と多数を占めた。

3 ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について

問36 ドメスティック・バイオレンスの経験

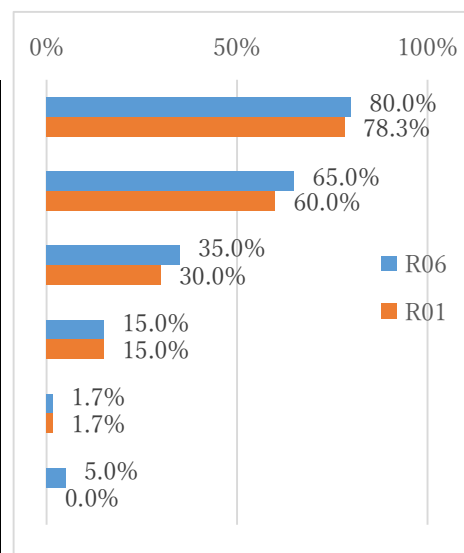
| | |
|-------------------------------|-----|
| 1 DVを受けたことはない | 256 |
| 2 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている。 | 266 |
| 3 DVを（自分自身が）受けたことがある | 36 |
| 4 身近な人から相談を受けたり、身近で見聞きしたことがある | 30 |
| 5 未回答 | 17 |
| ケース数（n） | 461 |



・ドメスティック・バイオレンスの経験については、DVを（自分自身が）受けたことがある方が全体の7.8%あり前回調査よりも増加している。

問37 受けたことがあるDVの内容

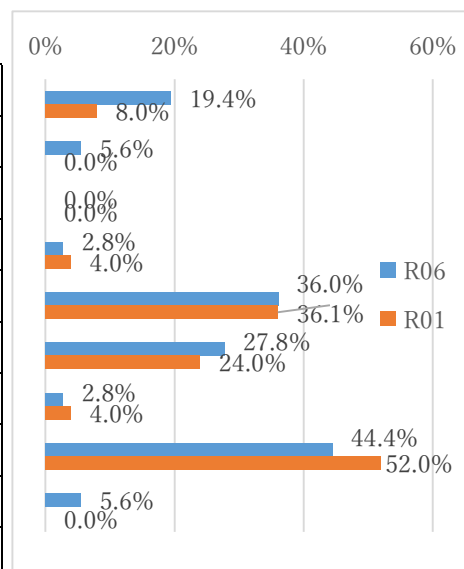
| | |
|---|----|
| 1 殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体的暴力 | 48 |
| 2 人格を否定するような暴言、行動の監視や長期間無視するなどの精神的嫌がらせ、あるいは、危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるなどの心理的攻撃 | 39 |
| 3 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、就業の妨害などの経済的圧迫 | 21 |
| 4 性的な行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要 | 9 |
| 5 その他 | 1 |
| 6 未回答 | 3 |
| ケース数（n） | 60 |



・受けたことがあるDVの内容としては、身体的暴力が最多の80%、次いで心理的攻撃が65%であった。

問38 DVを受けたときの相談先

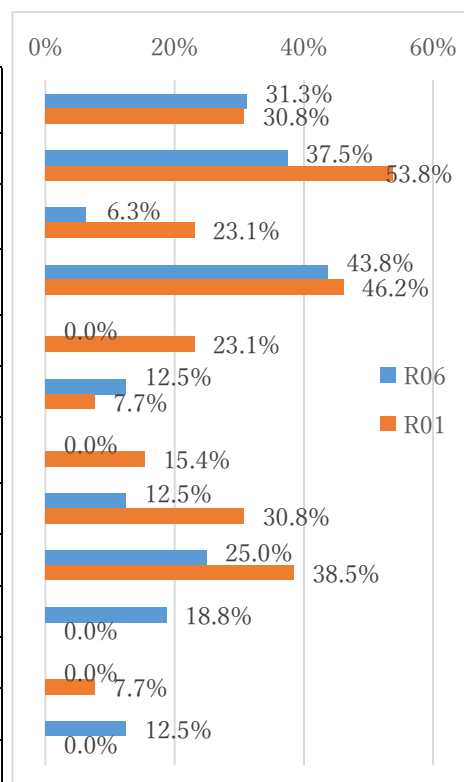
| | |
|----------------------------------|----|
| 1 警察 | 7 |
| 2 警察以外の公的機関（配偶者暴力相談支援センター、市役所など） | 2 |
| 3 民間の相談機関（NPO 法人など） | 0 |
| 4 民間の専門機関（弁護士や医師・カウンセラーなど） | 1 |
| 5 家族や親戚 | 13 |
| 6 友人・知人 | 10 |
| 7 その他 | 1 |
| 8 どこ（だれ）にも相談しなかった | 16 |
| 9 未回答 | 2 |
| ケース数（n） | 36 |



- DVを受けたときの相談先についての質問で、どこ（だれ）にも相談しなかったとの回答が最多の44.4%あった。警察に相談したケースは19.4%と倍増した。

問39 相談しなかった理由

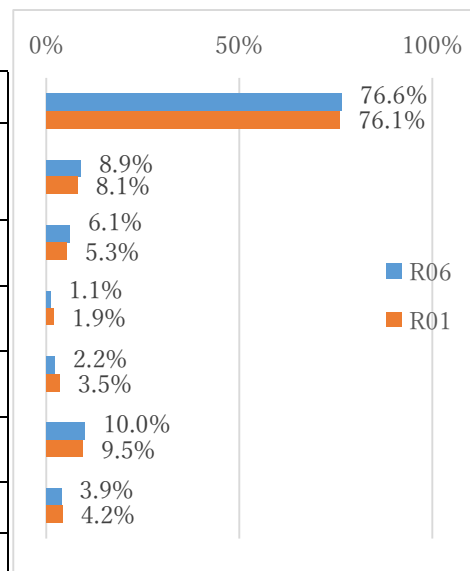
| | |
|---|----|
| 1 どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから | 5 |
| 2 相談しても無駄だと思ったから | 6 |
| 3 相談したことが分かったと、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから | 1 |
| 4 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから | 7 |
| 5 世間体が悪いから | 0 |
| 6 他人を巻き込みたくなかったから | 2 |
| 7 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから | 0 |
| 8 自分にも悪いところがあると思ったから | 2 |
| 9 相談するほどのことではないと思ったから | 4 |
| 10 特に理由はない | 3 |
| 11 その他 | 0 |
| 12 未回答 | 2 |
| ケース数（n） | 16 |



- DVを受けたときにどこ（だれ）にも相談しなかった理由としては、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が最多の43.8%，次いで「相談しても無駄だと思ったから」が37.5%，「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから」が31.3%と、課題の多さが浮き彫りとなった。

問４０ セクシュアル・ハラスメントの経験

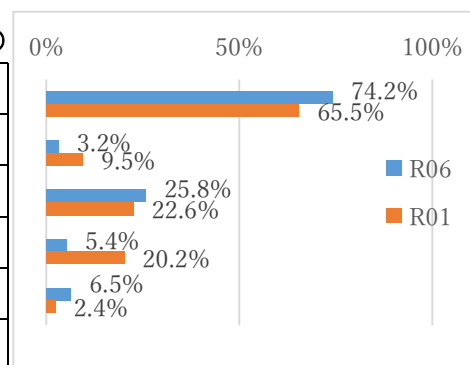
| | |
|---|-----|
| 1 ない | 353 |
| 2 自分自身が言葉によるセクハラを受けたことがある（性的に不快な言葉や呼びかけ、過度なプライベートの詮索など） | 41 |
| 3 自分自身が触れられるなど身体的接触を受けたことがある | 28 |
| 4 自分自身が性的な行為の誘いかけや強要をされたことがある | 5 |
| 5 自分自身が付きまといやストーカーなどの行為を受けたことがある | 10 |
| 6 身近な人から相談を受けたり、身近で見聞きしたことがある | 46 |
| 7 未回答 | 18 |
| ケース数（ｎ） | 461 |



・セクシュアル・ハラスメントの経験については、自分自身が言葉や身体的接触によるセクハラを受けたことがあると答えた方が58名（12.6%）あった。

問４１ セクハラを受けた場所（身近で見聞きしたケースを含む）

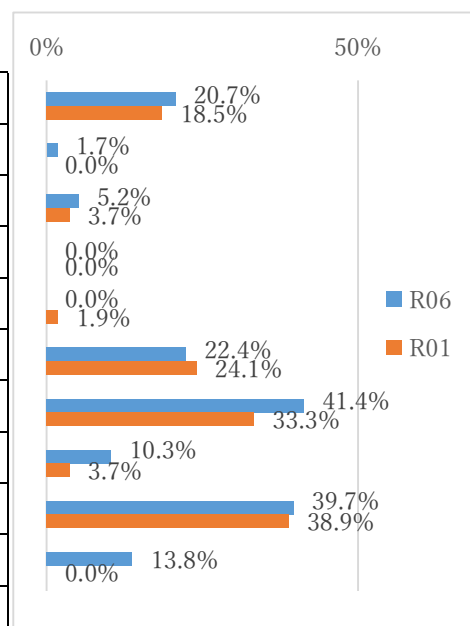
| | |
|---------|----|
| 1 職場で | 69 |
| 2 学校で | 3 |
| 3 地域で | 24 |
| 4 その他 | 5 |
| 5 未回答 | 6 |
| ケース数（ｎ） | 93 |



・セクハラを受けた場所は、職場が最多の74.2%であった。

問４２ セクハラを受けたときの相談先

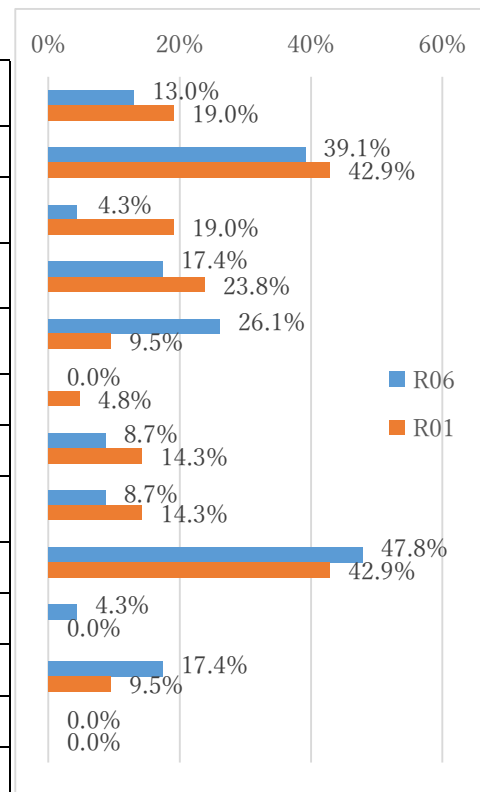
| | |
|-------------------------------|----|
| 1 職場の相談窓口相談した（職場でのセクハラの場合） | 12 |
| 2 公的機関（警察以外の国・県・市など役所の相談窓口など） | 1 |
| 3 警察 | 3 |
| 4 民間の相談機関（NPO 法人など） | 0 |
| 5 民間の専門機関（弁護士や医師・カウンセラーなど） | 0 |
| 6 家族や親戚 | 13 |
| 7 友人・知人 | 24 |
| 8 その他 | 6 |
| 9 どこ（だれ）にも相談しなかった | 23 |
| 10 未回答 | 8 |
| ケース数（ｎ） | 58 |



・セクハラを受けたときの相談先としては、友人知人が41.4%と最多であった。一方で、どこ（だれ）にも相談しなかった方が39.7%あった。

問43 相談しなかった理由

| | |
|---|----|
| 1 どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから | 3 |
| 2 相談しても無駄だと思ったから | 9 |
| 3 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい嫌がらせを受けると思ったから | 1 |
| 4 相談したことが分かると、解雇や降格など不利益を受けると思ったから | 4 |
| 5 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから | 6 |
| 6 世間体が悪いから | 0 |
| 7 他人を巻き込みたくなかったから | 2 |
| 8 他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから | 2 |
| 9 相談するほどのことではないと思ったから | 11 |
| 10 特に理由はない | 1 |
| 11 その他 | 4 |
| 12 未回答 | |
| ケース数(n) | 23 |

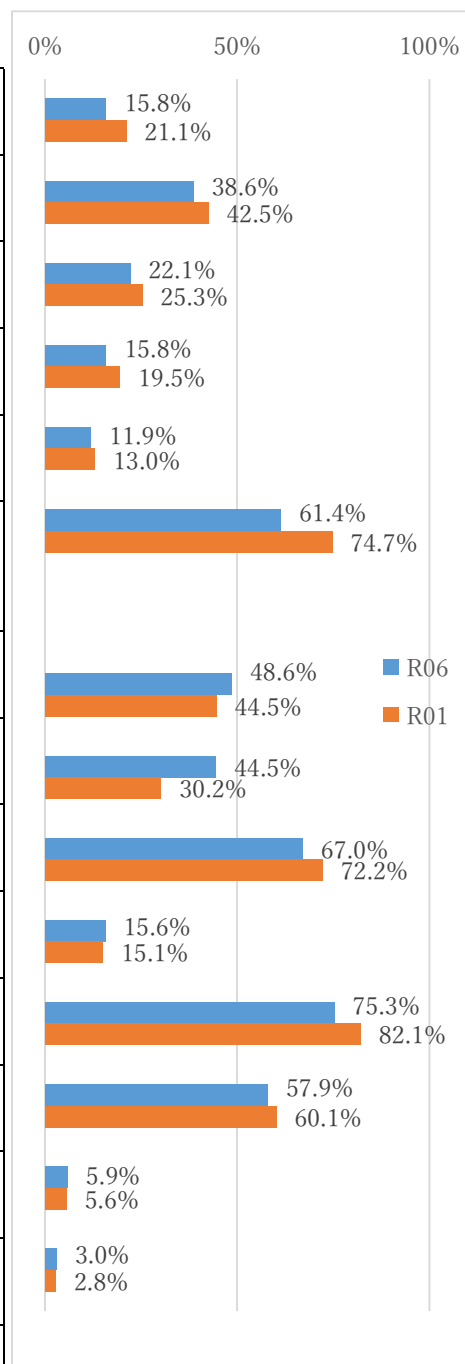


・セクハラを受けたときに、どこ(だれ)にも相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」が47.8%、「相談しても無駄だと思ったから」が39.1%あった。

4 男女共同参画社会について

問4-4 男女共同参画に関する用語等の周知度

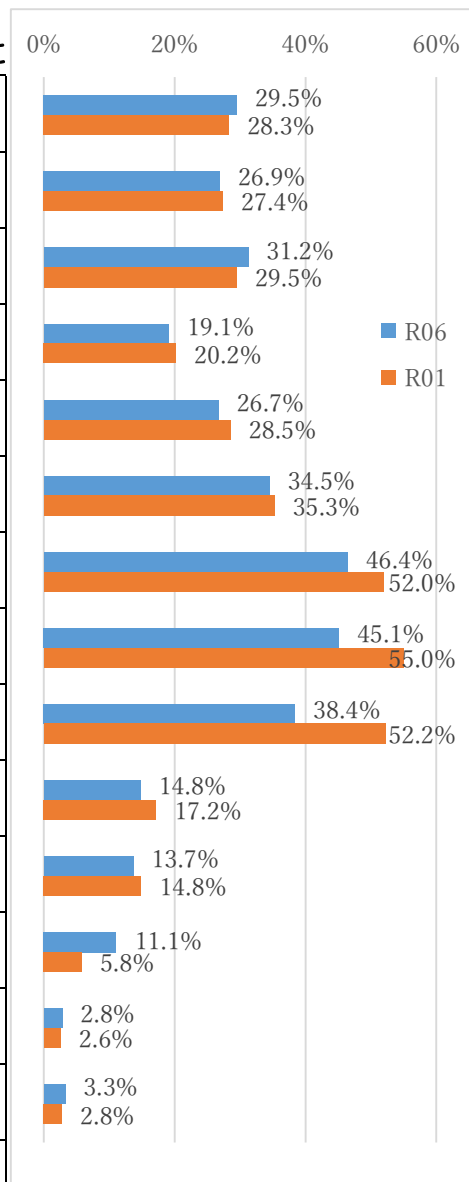
| | |
|--|-----|
| 1 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約） | 73 |
| 2 男女共同参画社会基本法 | 178 |
| 3 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律） | 102 |
| 4 鹿嶋市男女共同参画計画 | 73 |
| 5 鹿嶋市男女共同参画情報誌「ウィング」 | 55 |
| 6 働き方改革（長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保など、働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現するための政策） | 283 |
| 7 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立） | 224 |
| 8 ダイバーシティ（性別や人種の違いに限らず、多様な人材を積極的に活用しようという考え方） | 205 |
| 9 マタニティ・ハラスメント（妊娠や出産をした女性に対する嫌がらせ） | 309 |
| 10 パタニティ・ハラスメント（男性の家事・育児参加に対する嫌がらせ） | 72 |
| 11 DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者や恋人などパートナーからの暴力） | 347 |
| 12 LGBTQ（性的少数者・セクシュアルマイノリティ） | 267 |
| 13 見たり聞いたりしたものはない | 27 |
| 14 未回答 | 14 |
| ケース数（n） | 461 |



- ・男女共同参画に関する用語等の周知度としては、「DV」「マタニティ・ハラスメント」「働き方改革」「LGBTQ」の用語の周知度が高かった。
- ・鹿嶋市男女共同参画計画（15.8%）、及び鹿嶋市男女共同参画情報誌「ウィング」（11.9%）の周知度は、前回同様周知度が低く、今後の課題である。

問45 男女共同参画社会を実現する為に鹿嶋市に望むこと

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 1 関係する制度の制定や見直し | 136 |
| 2 男女の機会の平等と相互理解や協力についての意識啓発、広報活動の充実 | 124 |
| 3 学校教育における男女の機会の平等、相互理解や協力についての学習の充実 | 144 |
| 4 審議会など政策や方針決定過程の場における女性の積極的な登用 | 88 |
| 5 行政機関・教育機関・企業などにおける女性管理職の積極的な登用 | 123 |
| 6 職場における男女の均等な扱いに向けた企業や経営者への意識啓発 | 159 |
| 7 男女が共に働きやすい就業環境の整備に向けた企業や経営者への意識啓発 | 214 |
| 8 子育てや介護などでいったん仕事をやめた人への再就職の支援 | 208 |
| 9 各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭生活の両立支援 | 177 |
| 10 地域や団体で活躍できる女性リーダーの育成 | 68 |
| 11 男性を対象とした、家事・育児などの能力向上のための各種講座の充実 | 63 |
| 12 特にない | 51 |
| 13 その他 | 13 |
| 14 未回答 | 15 |
| ケース数 (n) | 461 |



・男女共同参画社会を実現する為に鹿嶋市に望むことは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備に向けた企業や経営者への意識啓発（46.4%）」「子育てや介護などでいったん仕事をやめた人への再就職の支援（45.1%）」「各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭生活の両立支援（38.4%）」が上位を占めた。

問46 自由記載

※自由記載欄の内容は、個人が特定されないよう配慮のうえ、代表的な意見を抜粋して掲載しています。外部公表にあたり、趣旨を損なわない範囲で体裁調整（表記・改行等）を行っています。

| |
|--|
| 日本は、海外に比べてまだまだ社会全体的に不平等を感じる事があります。同じ事をしても男性は許されるが女性に対しては風当たりが強いと感じる事が多々あります。男性、女性が共に子育てや介護等が出来る環境を整えたり、休暇を取りやすくしたり労働時間等、改善が必要だと思います。 |
| 最近は特に大きく感じることはないが、やっぱり男性の方が育児への取り組み姿勢は低いと思う。もっと男性の育休をマストで取らせるべきではないかと思う。 |
| 男女の差別を知らないうちに受けて生きてきた年配の方たちは、知らないうちに差別的な発言をしていることがあります。制度としてはしっかり確立していかなければならないと思います。 |
| 男女の不平等は感じられないが、家庭の事情で働きに出れない女性は多く居るのでは無いかなと思う。子育てや介護等の補助が必須。平等や公平の意味を理解していない人も多いと感じるので、説明をきける機会も欲しい。 |
| 妻は結婚後パートになりましたが、子育てが終わったあとは就職が困難だなと感じました。子育てが終わったあとの女性が再就職しやすくなるような支援は必要かと感じました。 |
| 以前の職場はシフト制、人員もギリギリだったので休みも取りにくく、高齢者の親の介護で離職するしかなかった。就活するにあたり、年齢や女性ということで差別を感じる会社もあった。 |
| 日本全体が、まだまだ家事や育児は女性がするものとの認識が強い。鹿嶋市において、女性が育児をしながら就業、社会活動への参加をするための環境は不十分であると思う。 |
| 小学生は学童以外あまりない。学校終わった子供達が心配な親は結構いると思う。その時にここに行けば必ず子供がいて安心だと集う場所遊び場が鹿嶋市にはない。 |
| 放課後児童クラブに給食や注文できるお弁当などがあると助かります。長期の休み中、仕事に行く前にお弁当を作り送っていくことが大変でした。 |
| 昔ながらの地区には、必ず男女の差がある。昔ながらの物を残すためには、柔軟な考えが必要になる。 |
| 自治会、PTA、少年団など、昔から続いてきた活動団体は、昔からのやり方を続けようとする事が多く、時代に取り残されているように感じる。成功しているモデルケースを行政で紹介、推進していただけると嬉しい。 |
| 各自治会の区長、組合長は男性のみが歴任してきた。今後は女性も自治会の役員を出来るようにした方が良いと思います。 |
| 管理職や政治家等の男女比率にこだわらない方が良い。同じにする必要はない。能力と意欲があるかたが、つける社会が望ましい。 |
| 女性を登用するという事にだけ注力されて実力のない女性リーダーが誕生するなどは本末転倒。実力がある方なら男性だろうと女性だろうと能力を発揮出来る場を与えてください。 |
| アンケートをとるだけでなく、集計後はどのように政策に活かされたかを展開して欲しい。 |

| |
|---|
| 古い方の意見や意識はなかなか変えられない。ただ、若い方はどんどん男女平等に対する意識が変わってきているように感じる。どんどん若い方の意見を聞いて、行政に取り入れて欲しい。 |
| 田舎ならではのまつりごと等で、古くからある『女性はどうあるべき』などのような考えの押し付け。(特にお年を召した方から) 子供、お年寄りの介護等、どうしても女性がやって当たり前の価値観がある。 |
| 『女性だから家事をする、女性だから料理をする、女性だから子育てをする』女性だからしなくてはいけないと思っていることがまだまだあります。なぜ女性だからなのでしょう。男性でもできて当然あたりまえのことです。 |
| 共働きの場合、子どもの体調不良ではやはり女性が仕事を休まなければならない場合が多いと思う。 |
| 夜中子供を診られる病院が無いため、隣の神栖市へ行かなければならない。 |
| 市街地から少し外れると、街灯も少ないのに雑草や雑木が多く廃業した店舗が放置されとても物騒であり、登下校を含め、子供の一人歩きをさせられない。 |
| 男女の不平等を感じる場面はいくつかあります。家庭内での役割分担、職場での不平等、地域やコミュニティでのしきたり、教育や進路選択の場面…。 |
| 男女平等と言われているが、国民一人一人が男女平等という意識を持っていない人が多いと思う。政策を変える前に、国民に理解してもらう必要がある。 |
| 男女共同参画社会という言葉の堅苦しさに身構えてしまいましたが、人間 1 人 1 人の個性、考え、主張等を大切にし尊重し合うことが、まず基本ではないでしょうか。 |
| 制度があっても、育休、男性がとりづらい。会社、法通りにはいかない所がある。 |
| 今でもあるのかもしれませんが周知されてないと思います。」(支援制度・再就職支援等に関して) |
| 地域全体での活動が活発になっていけば変わってくると思います。支援制度を増やすと家庭が安定して地域も安定してくると思います。 |
| 鹿嶋市男女共同参画という言葉初めて知りました。時間はかかると思いますが、男女が平等で生活できるようになって…。 |
| そもそも男性と女性では得意分野が違うと思うので、全く同じにすることは難しい。それぞれの得意分野が発揮できるような場であってほしい。 |
| 不平等は、当たり前。永遠のテーマだと思う。そもそも、体の構造が違うのだから平等は無理だと思う。それぞれの役割を果たせば良いのでは？ |
| 外国の方が増えてきました。人手不足の解消など、男女共同参画にもつながると思います。給料のちがい。 |
| 女性目線での言い方や表現が多い。(男性も平等にして欲しいところはたくさんありますが女性側のみフォーカスされているように感じる) |
| あらゆる社に対して障がい者に対する差別をなくしてほしい。障がい者にも正社員になれるかんきょうにしてほしい。 |

【寄せられた主な意見（論点別）】

※自由記載欄の内容をもとに、個人が特定されないよう配慮しつつ、同趣旨の意見を整理・集約して作成しています。

（１）家事・育児・介護の偏りと、男性の参画促進

- ・共働きでも、家事・育児・学校対応が女性に偏りやすいという声がありました。
- ・男性の育児休業や家事・育児参加を進めるため、職場で取得しやすい環境づくりを求める意見がありました。
- ・介護をきっかけに離職せざるを得なかった、休みが取りづらかった等、仕事と介護の両立の難しさが挙げられました。

（２）子育て支援（特に小学生以降）と、安心して暮らせる環境

- ・未就学期に比べ、小学生以降の放課後の居場所や長期休暇の負担など、支援の不足を指摘する声がありました。
- ・放課後児童クラブでの昼食対応（給食・弁当等）や、運用面の改善を求める意見がありました。
- ・安全・安心（見守り、通学路、防犯等）が整うことで、保護者の負担や不安が軽減されるのではないかという意見がありました。

（３）就労・再就職支援と、職場の理解

- ・子育て後の再就職が難しい、年齢や性別を理由に不利に感じた、という声がありました。
- ・資格取得やリスキリング、再就職支援の拡充、制度の周知を求める意見が見られました。
- ・行政の呼びかけだけでなく、企業側の理解や運用が重要という指摘がありました。

（４）地域の慣習・活動のあり方（自治会、PTA 等）

- ・地域の慣習や「昔ながらの役割分担」が残り、変えることが難しいという意見がありました。
- ・自治会等の役員を女性も担えるようにするなど、参加のあり方の見直しを求める声がありました。
- ・忙しい子育て世代でも参加しやすいよう、他地域の成功事例（運営モデル）の紹介・推進を望む意見がありました。

（５）意識改革・学びの機会

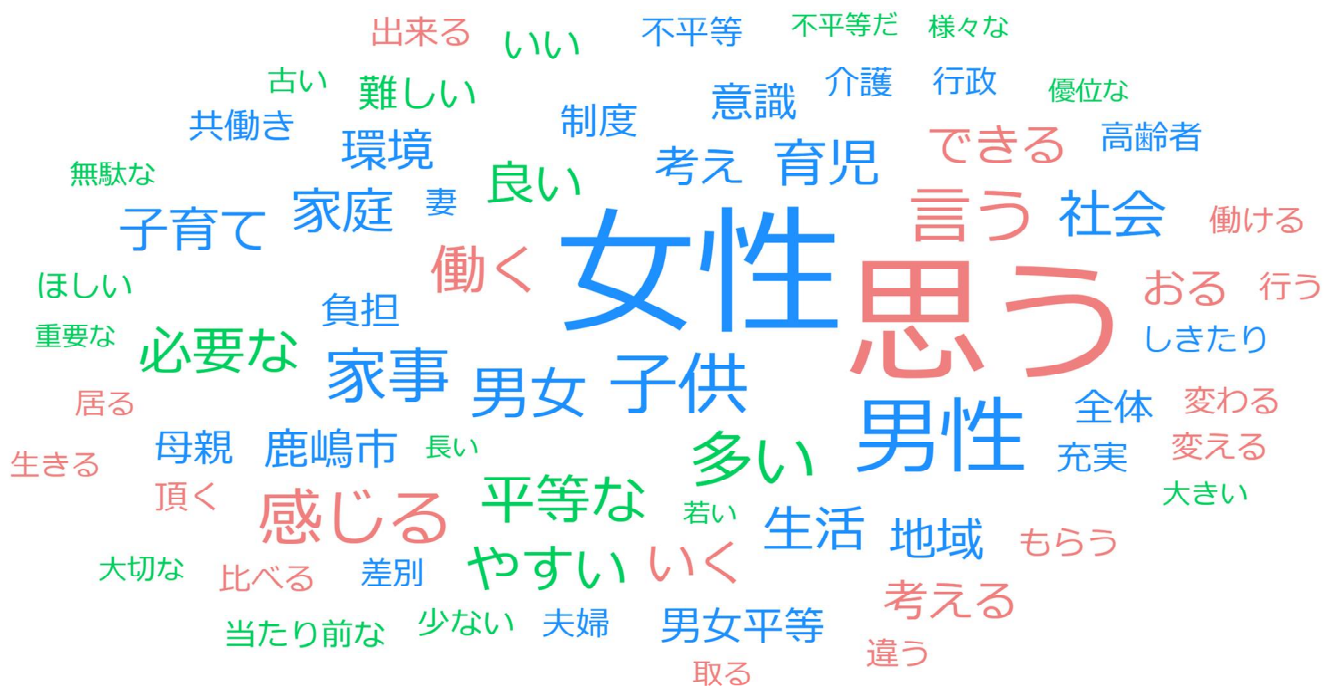
- ・世代によって意識差があるという指摘があり、平等・公平の考え方、互いを尊重する姿勢を学ぶ機会の必要性が挙げられました。

（６）進め方に関する多様な意見（配慮点）

- ・男女比率の「数合わせ」ではなく、能力・意欲・適材適所を重視すべきという意見がありました。
- ・施策が形だけにならないよう、丁寧な説明と納得感のある運用を求める声がありました。

【ワードクラウド】

自由回答のような文章形式のデータを単語に分解し、どのような単語が何回、どのような文脈で、どんな別の単語と一緒に使われているのかなどを統計的な手法を用いて、全体としてどのようなことが語られているのかを分析すること。使われている言葉が多いほど文字が大きく表示される。



鹿嶋市男女共同参画に関する市民意識調査 ご協力をお願い

日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本市においては、男女共同参画社会[※]の実現に向けて、現在、令和3年度から令和7年度を計画期間とする「鹿嶋市男女共同参画計画」に基づき、種々の施策を実施しています。

今般市では、社会情勢の変化を踏まえ、新たな課題に取り組むため、令和8年度から5年間を計画期間とする「第4次鹿嶋市男女共同参画計画」の策定を予定しています。

そこで、計画の策定と今後の施策の基礎資料とするため、18歳以上の市民1,500人（無作為抽出）を対象に、市民意識調査を実施することといたしました。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月

鹿嶋市長 田口 伸一

<ご回答にあたってのお願い>

●回答方法

次の①か②のどちらかで回答してください。

①インターネット上で回答

<https://logoform.jp/form/kRr5/667991>



②調査票に記入し郵送

記入後、同封の返信用封筒に入れ、投函してください。（切手は不要です。）

●回答期限

8月31日（土）まで ※郵送の場合、必着です。

●提出先

鹿嶋市市民生活部地域づくり推進課

〒314-8655 鹿嶋市大字平井 1187 番地 1

電話：0299-82-2911 内線 301 FAX：0299-83-7809

メール：siminkatsudou1@city.ibaraki-kashima.lg.jp

●この調査は、インターネット上で回答するか、調査票に記入して回答するか、どちらか一方でお答えください。両方行う必要はありません。

●この調査には、あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。

●あて名のご本人がお答えください。ご本人による回答が難しい場合は、ご家族の方が聞き取るなどして補助をお願いいたします。

●質問は、全部で46問あります。質問ごとにあてはまるものを選んでください。
(所要時間15分程度)

●答えを選ぶ数は、質問ごとに指定していますので、その範囲でご記入ください。

●回答が「その他」の場合は、()内になるべく具体的にその内容を記入してください。

●調査票に記載いただいた回答やご意見は、すべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、調査の目的以外には一切使用いたしません。

●本調査について、ご不明な点がございましたら下記までお問合せください。

＜問合せ先＞

鹿嶋市市民生活部地域づくり推進課

〒314-8655 鹿嶋市大字平井 1187 番地 1

電話：0299-82-2911 内線 301 FAX：0299-83-7809

メール：siminkatsudou1@city.ibaraki-kashima.lg.jp

《 ※ 男女共同参画社会とは… 》

男女が、様々な分野に対等なパートナーとして参画し、自らの個性と能力を十分に発揮しながら多様な生き方を認めあい、いきいきと充実した生活を送ることができる社会のことをいいます。

鹿嶋市男女共同参画に関する市民意識調査票（令和6年8月実施）

■あなたご自身について

まずは、あなたご自身についてお聞きします。それぞれあてはまるものを選んでください。

問1 あなたの性別について、あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 男性 2 女性 3 その他 4 回答しない

問 2 あなたの年齢についてお聞きします。(令和6年7月1日現在)

- | | | | | | |
|----|--------|----|--------|---|--------|
| 1 | 18～24歳 | 2 | 25～29歳 | 3 | 30～34歳 |
| 4 | 35～39歳 | 5 | 40～44歳 | 6 | 45～49歳 |
| 7 | 50～54歳 | 8 | 55～59歳 | 9 | 60～64歳 |
| 10 | 65～69歳 | 11 | 70歳以上 | | |

問3 あなたは結婚されていますか。

- 1 現在、結婚している
2 結婚していたが、離別・死別した
3 結婚したことはない

問4 あなたにお子さんはいますか。

- 1 いる (→問5へ) 2 いない (→問7へ)

問5 《問4でお子さんが「いる」とお答えの方にお聞きします。》

お子さんは何人ですか？

- 1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上

問6 《問4でお子さんが「いる」とお答えの方にお聞きします。》

お子さんの成長段階について、あてはまるものをすべて選んでください。

例) 小学生 2 人、中学生 1 人の場合は、「小学生」と「中学生」を選ぶ。

- 1 小学校入学前 2 小学生 3 中学生 4 高校生
5 専門学校・短大・大学、大学院生 6 就労、結婚により独立している
7 その他（ ）

問7 あなたは、ご家族に（高齢者や障がい者、病人など）介護や看護を必要とする方がいますか。

- 1 いる（同居） 2 いる（別居） 3 いない

問 8 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は、どれにあたりますか。

- 1 一人世帯 2 夫婦のみの世帯 3 親と未婚の子からなる世帯
4 親と子ども夫婦の世帯 5 親と子と孫からなる世帯
6 その他（具体的に_____）

■男女共同参画社会に関する意識について

次にあげる分野で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

問 9 <<すべての方にお聞きします。>>

家庭生活（家事、育児、介護など）で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 0 <<すべての方にお聞きします。>>

職場で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 1 <<すべての方にお聞きします。>>

学校教育の場で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 2 <<すべての方にお聞きします。>>

慣習・しきたりで、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 3 《すべての方にお聞きします。》

地域活動（自治会、PTAなど）で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 4 《すべての方にお聞きします。》

政治・行政（議会や各種審議会など政策・方針決定の場への女性の参画）で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 5 《すべての方にお聞きします。》

法律や制度で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 6 《すべての方にお聞きします。》

社会全体で、男女の地位は、一般的に平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問 1 7 《すべての方にお聞きします。》

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、最も重要なことは何だと思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 法律や制度を見直し、女性差別につながるものを改めること
- 2 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身が、経済力をつけること
- 4 女性自身が、知識や技術を習得し、能力の向上を図ること
- 5 女性が働くことや社会参加することを支援する施設やサービスの充実を図ること
- 6 国や地方公共団体、企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 7 わからない
- 8 その他（ ）

■就業について

あなたの現在の就労形態は、どれにあたりますか。それぞれあてはまるものを選んでください。

問 1 8 《すべての方にお聞きします。》

あなたの現在の就労形態は、どれにあたりますか。

あてはまるものを1つ選んでください。学生の方は、アルバイトをしても「学生」を選んでください。

- 1 正社員、正職員
- 2 契約社員、派遣社員
- 3 パートタイム、アルバイト
- 4 自営業
- 5 家事専業・無職
- 6 学生
- 7 その他（ ）

問 1 9 《問3で「現在、結婚している」とお答えの方にお聞きします。》

配偶者の現在の就労形態は、どれにあたりますか。

あてはまるものを1つ選んでください。学生の方は、アルバイトをしても「学生」を選んでください。

- 1 正社員、正職員
- 2 契約社員、派遣社員
- 3 パートタイム、アルバイト
- 4 自営業
- 5 家事専業・無職
- 6 学生
- 7 その他（ ）

問 2 0 《問18で「家事専業・無職」とお答えの方（収入を伴う仕事をしていない方）にお聞きします。》

あなたは過去に、収入を伴う仕事をしていたことがありますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 ある（かつて働いていたが、今は働いていない）
- 2 ない（最終学歴卒業・中退後、一度も働いたことはない）

問 2 1 《問 1 8 で「家事専業・無職」とお答えの方（収入を伴う仕事をしていない方）にお聞きします。》

- 1 すぐにでも仕事につきたい・求職中
- 2 現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事につきたい
- 3 今すぐにではないが、いずれは仕事につきたい
- 4 仕事にはつきたくない、働く必要がない

その就労形態についた理由、または、働いていない理由について、あてはまるものをすべて選んでください。

■男女の生き方や家庭生活などに関する意識について

問 23 《すべての方にお聞きします。》

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

問 24 《すべての方にお聞きします。》

男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 家事・育児は女性の方が向いている
- 2 妻が家事・育児をしていないと誤解される
- 3 周囲から冷たい目で見られる（理解が得られない）
- 4 男性は、家事・育児を行うべきではない
- 5 男性も家事・育児を行うことは当然である
- 6 家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
- 7 男性自身も充実感が得られる
- 8 子どもにいい影響を与える
- 9 仕事と両立させることは、現実として難しい
- 10 特にない
- 11 わからない
- 12 その他（ ）

問 25 《すべての方にお聞きします。》

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの理想に最も近いものを1つ選んでください。

「仕事」：自営業（農林漁業を含む）、家族従業（家業の仕事）、常勤、パートタイム、アルバイトなどを問いません。

「家庭生活」：家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。

「地域・個人の生活」：地域活動（ボランティア活動、地域のつきあいなど）、学業、趣味・娯楽スポーツなど。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先しつつ、「仕事」もしたい
- 3 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」の優先度は同じにしたい
- 4 「仕事」を優先しつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」もしたい
- 5 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先したい
- 6 学生のため学業を優先したい
- 7 わからない

問 26 《すべての方にお聞きします。》

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現状に最も近いものを1つ選んでください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先しつつ、「仕事」もしている
- 3 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」の優先度は同じである
- 4 「仕事」を優先しつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」もしている
- 5 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している
- 6 学生のため学業を優先している
- 7 わからない

問 27 《すべての方にお聞きします。》

あなたは、現在、地域活動（自治会やボランティア、NPO、サークルなどの活動）をしていますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 している (→問28へ) 2 していない (→問29へ)

問 2 8 《問 2 7 で「している」とお答えの方にお聞きします。》

どのような地域活動をしていますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 町内会や自治会の活動
- 2 まちづくりなどに取り組む活動（まちづくり委員会や公民館活動など）
- 3 保育園や幼稚園、学校などのPTA活動や子ども会活動
- 4 スポーツ少年団や子育てサークルなどの活動
- 5 福祉関係の活動（高齢者や障がい者に関するボランティアなど）
- 6 防災・防犯に関する活動
- 7 自然環境保護に関する活動
- 8 趣味やスポーツ、文化活動
- 9 国際交流に関する活動
- 10 その他（ ）

問 2 9 《問 2 7 で「していない」とお答えの方にお聞きします。》

地域活動に参加していないのは、どのような理由からですか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 仕事が忙しく時間がない
- 2 育児のために時間がない
- 3 介護や看護のために時間がない
- 4 経済的な負担がある
- 5 健康に自信がない
- 6 対人関係に自信がない
- 7 情報がなくわからない
- 8 役員などにされると困る
- 9 きっかけがない
- 10 参加したくない
- 11 特に理由はない
- 12 その他（ ）

問 3 0 《すべての方にお聞きします。》

男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること
- 2 夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を、年配者や周りの人が尊重すること
- 3 （男性が家事などに参加することに対する）男性自身の抵抗感をなくすこと
- 4 （男性が家事などに参加することに対する）女性自身の抵抗感をなくすこと
- 5 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度などを普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 8 男女ともに家事・子育て・介護・地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間づくり（ネットワーク）を進めること
- 10 特にない
- 11 わからない
- 12 その他（ ）

■女性の就業、参画に関する意識について

あなたの考えに最も近いものを選んでください。

問 3 1 《すべての方にお聞きします。》

女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 女性は職業を持たない方がよい（→問33へ）
- 2 結婚したら、職業を持たない方がよい
- 3 結婚後も職業を持つのがよいが、子どもができた後はずっと職業を持たない方がよい
- 4 子どもができたなら職業を持たず、子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい
- 5 結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい
- 6 わからない
- 7 その他（ ）

問 3 2 《問31で「女性は職業を持たない方がよい」以外をお答えの方にお聞きします。》

女性が働きつづけるためには、家庭・社会・職場において、どのようなことが必要だと思いますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 2 家事・育児支援サービスの充実
- 3 介護支援サービスの充実
- 4 男性の家事参加への理解・意識改革
- 5 （女性が働き続けることへの）周囲の理解・意識改革
- 6 （女性が働き続けることへの）女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善など、労働環境の改善
- 8 職場における育児・介護・看護のための休暇制度の充実
- 9 出産・介護などで離職した人に対する再雇用制度の充実
- 10 特にない
- 11 わからない
- 12 その他（ ）

問 3 3 《すべての方にお聞きします。》

女性の活躍推進に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）
- 2 放課後児童クラブなど放課後の児童預かりに関する情報（場所、利用料など）
- 3 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）
- 4 就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）
- 5 起業のための情報（支援内容・相談先など）
- 6 NPO 活動のための情報（支援内容・相談先など）
- 7 仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）
- 8 出産・育児などを経験しながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報
- 9 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報
- 10 ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方の見直しの実践例に関する情報
- 11 特にない
- 12 わからない
- 13 その他（ ）

問 3 4 《すべての方にお聞きします。》

政治・経済・地域などの各分野で女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思いますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 多様な視点が加わるにより、新たなサービスや施策が充実する
- 2 人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する
- 3 女性の声が反映されやすくなる
- 4 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
- 5 男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる
- 6 労働時間の短縮など、働き方の見直しが進む
- 7 男性の家事・育児などへの参加が増える
- 8 保育や介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増える
- 9 特にない
- 10 わからない
- 11 その他（ ）

問 3 5 《すべての方にお聞きします。》

政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに、世間一般で障害となるものは何だと思いますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 リーダーになることに対する女性自身の抵抗感
- 3 男性がリーダーとなるのが社会通念、慣行となっていること
- 4 長時間労働の改善など、労働環境が十分ではないこと
- 5 保育・介護・家事などにおける夫や家族などの支援が十分ではないこと
- 6 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 7 特にない
- 8 わからない
- 9 その他（ ）

■ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について

あてはまるものをすべて選んでください。

問 3 6 《すべての方にお聞きします。》

あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人などパートナーからの暴力）を経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 DVを受けたことはない（→問40へ）
- 2 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている。（→問40へ）
- 3 DVを（自分自身が）受けたことがある（→問37へ）
- 4 身近な人から相談を受けたり、身近で見聞きしたことがある（→問37へ）

問 3 7 《問 3 6 で「DV を（自分自身が）受けたことがある」「身近で見聞きしたことがある」とお答えの方にお聞きします。》

どのような暴力でしたか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体的暴力
- 2 人格を否定するような暴言、行動の監視や長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるなどの心理的攻撃
- 3 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、就業の妨害などの経済的圧迫
- 4 性的な行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要
- 5 その他（ ）

問 38 ≪問 36で「DVを（自分自身が）受けたことがある」とお答えの方にお聞きします。≫

問37のような行為を受けたことについて、どこ（だれ）かに相談しましたか。
あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 警察
2 警察以外の公的機関（配偶者暴力相談支援センター、市役所など）
3 民間の相談機関（NPO 法人など）
4 民間の専門機関（弁護士や医師・カウンセラーなど）
5 家族や親戚
6 友人・知人
7 どこ（だれ）にも相談しなかった（→問39へ）
8 その他（ ）

問39 ≪問38で「どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えの方にお聞きします。≫
相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
- 4 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 5 世間体が悪いから
- 6 他人を巻き込みたくなかったから
- 7 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 8 自分にも悪いところがあると思ったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 特に理由はない
- 11 その他（ ）

問 4 0 《すべての方にお聞きします。》

あなたは、セクハラ（セクシュアル・ハラスメント/性的な嫌がらせ）を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 ない（→問 4 4 へ）
- 2 自分自身が言葉によるセクハラを受けたことがある（性的に不快な言葉や呼びかけ、過度なプライベートの詮索など）
- 3 自分自身が触れられるなど身体的接触を受けたことがある
- 4 自分自身が性的な行為の誘いかけや強要をされたことがある
- 5 自分自身が付きまといやストーカーなどの行為を受けたことがある
- 6 身近な人から相談を受けたり、身近で見聞きしたことがある

問 4 1 《問 4 0 で「セクハラを自分自身が受けた」、または「身近で見聞きした」とお答えの方にお聞きします。》

そのセクハラはどこで行われましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 職場で
- 2 学校で
- 3 地域で
- 4 その他（ ）

問 4 2 《問 4 0 で「セクハラを自分自身が受けた」、または「身近で見聞きした」とお答えの方にお聞きします。》

セクハラを受けたことについてどこ（だれ）かに相談しましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 職場の相談窓口相談した（職場でのセクハラの場合）
- 2 公的機関（警察以外の国・県・市など役所の相談窓口など）
- 3 警察
- 4 民間の相談機関（NPO 法人など）
- 5 民間の専門機関（弁護士や医師・カウンセラーなど）
- 6 家族や親戚
- 7 友人・知人
- 8 どこ（だれ）にも相談しなかった（→問 4 3 へ）
- 9 その他（ ）

問 4 3 《問 4 2 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えの方にお聞きします。》
相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 相談したことが分かったら、仕返しを受けたり、もっとひどい嫌がらせを受けると思ったから
- 4 相談したことが分かったら、解雇や降格など不利益を受けると思ったから
- 5 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 6 世間体が悪いから
- 7 他人を巻き込みたくなかったから
- 8 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 特に理由はない
- 11 その他（ ）

■男女共同参画社会について

あなたの考えにあてはまるものを選んでください。

問 4 4 《すべての方にお聞きします。》

あなたは、次の言葉を見たり聞いたりしたことはありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）
- 2 男女共同参画社会基本法
- 3 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
- 4 鹿嶋市男女共同参画計画
- 5 鹿嶋市男女共同参画情報誌「ウィング」
- 6 働き方改革（長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態にかかわらない公正な待遇の確保など、働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現するための政策）
- 7 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）
- 8 ダイバーシティ（性別や人種の違いに限らず、多様な人材を積極的に活用しようという考え方）
- 9 マタニティ・ハラスメント（妊娠や出産をした女性に対する嫌がらせ）
- 10 パタニティ・ハラスメント（男性の家事・育児参加に対する嫌がらせ）
- 11 DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者や恋人などパートナーからの暴力）
- 12 LGBTQ（性的少数者・セクシュアルマイノリティ）
- 13 見たり聞いたりしたものはない

問 4 5 《すべての方にお聞きします。》

「男女共同参画社会」を実現するために、鹿嶋市の施策に望むことは何ですか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 関係する制度の制定や見直し
- 2 男女の機会の平等と相互理解や協力についての意識啓発、広報活動の充実
- 3 学校教育における男女の機会の平等、相互理解や協力についての学習の充実
- 4 審議会など政策や方針決定過程の場における女性の積極的な登用
- 5 行政機関・教育機関・企業などにおける女性管理職の積極的な登用
- 6 職場における男女の均等な扱いに向けた企業や経営者への意識啓発
- 7 男女が共に働きやすい就業環境の整備に向けた企業や経営者への意識啓発
- 8 子育てや介護などでいったん仕事をやめた人への再就職の支援
- 9 各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭生活の両立支援
- 10 地域や団体で活躍できる女性リーダーの育成
- 11 男性を対象とした、家事・育児などの能力向上のための各種講座の充実
- 12 特になし
- 13 その他（ ）

■ さいごに

あなたの考えをお聞かせください。

問 4 6 家庭や地域、職場、しきたりなど、生活する中で、特に男女の不平等（差別）を感じるところがありましたら具体的に記入してください。その他、男女共同参画社会の実現のためにご意見・ご要望がございましたら、下記に自由にお書きください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

